

大谷大学広報

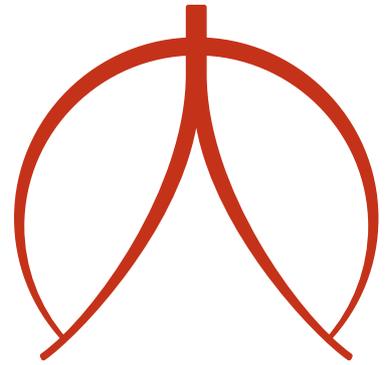
編集 大谷大学広報編集委員会

No.172

2007年7月9日

夏

2007



お気に入りの一枚

2007年度課外活動
春季大会結果

学問のしおり

聞くという読み方
加来 雄之

谷大エリア散策
GENPE

写真でふりかえる大谷大学今昔

SQUARE

地球温暖化の現在
西田 潤一

冬扇

夜になると昼間に見えるものが見えなくなる代わりに、月が見え、星が見え、時には遥かなる銀河にまで目の力が及ぶ。「昼」は地上の瑣事を見せ、「夜」は宇宙という普遍的世界を示すとは、今更言うまでもないことながら、常に新鮮な驚きを覚えさせる事実でもある。

つまり、視覚の二重性という問題。『星の王子さま』のキツネは「心でしか正しく見えない、大切

なものには目では見えない」と言う。詩人ワーズワスは、湖水の岸で風に揺れる黄水仙の大群に遭遇し、それらが後日「内なる目に閃光のごとくきらめき、心が水仙と共に踊る」経験をした。

イギリス・ロマン主義の大きな成果は、主体と客体を峻別するデカルト的認識の構図を否定し両者の歩み寄りによる合一を実現したもの、と言えるが、ブレイクは一步進めて「目が変わればすべてが変わる」と主張した。

世界を正しく見るとは新しい世界の創造に他ならず、それは「目」ではなく「ヴィジョン」の仕事である。しかし、神秘的・超越的洞察を意味するヴィジョンの原義は肉体の目で見ることである。

果たして、聖なる世界とは、それを仰ぎ見る視線で見返した地上の光景なのではあるまいか。仏道の「観」の世界からの教えを請う次第である。

(宮川 清司)

お気に入りの一枚

かつてカメラもフィルムも高かった時代、写真を撮るという行為には、何か特別な気分が伴っていました。デジタルカメラが普及し、携帯電話もカメラ付きが当たり前になった現在、写真は本当に身近なものになっています。人が一生に撮る写真の数も、昔と比べてはるかに多くなっていることでしょう。しかし写真が特別なものでなくなればなくなるほど、撮っただけでそのまま忘れてしまうことも増えているのではないのでしょうか。撮りっぱなしになっている写真を整理してみると、忘れかけていた人生のすばらしい瞬間に再会できるかもしれません。



お気に入りの一枚

——なつかしい、あまりにもなつかしい人たち——

鄭 早 苗

5人が写っているこの写真はかれこれ20年ほど前に、ある在日コリアン研究者の祝賀会に集まった時に撮ってもらったものである。5人のうち2人は日本人で、3人は在日コリアンだが、多くの人が識別できるのは日本人で、今も人気の高い司馬遼太郎先生ぐらいであろう。大阪外国語学校（現大阪外国語大学）でモンゴル語を専攻された司馬先生でも、われらモンゴル人のうち、誰が日本人で、誰がコリアンか識別不能であるほど、近い関係の東アジア所属のわれわれ。真ん中が筆者の私で、その右隣が京都大学の飯沼二郎先生、飯沼先生の隣が川崎市青丘社の李仁夏先生、司馬先生の隣が朝鮮奨学会曹基亨先生であるが、飯沼先生、司馬先生、曹先生はすでに彼岸へ行かれた。

私が在日コリアンでなければ会うことのなかった人々である。高校時代からお世話になりっぱなしの曹先生は、貧しかった私に家庭教師先をよく紹介してくださった。厚かましい私は日本人の友人



の家庭教師先まで頼んで面倒を見ていただいた。入院されていた病院の前を通るたびに今もなつかしさがこみ上げる。経済学者の飯沼先生は活動的であり、また厳しい方で、抑圧されたコリアンの友人であった。雑誌『朝鮮人—大村収容所を廃止するために』を出し続けられた飯沼先生を慕うコリアンは今も多い。司馬先生のコリアンを見られるまなざしはいつもやさしく、平等であった。李先生は今も川崎市でご活躍である。

この文章を書く合間に何度もこの写真を見て、長い時間思い出にひたっている。私も写真の先生方の年齢に近づいているのだが、私の人間性の成長は恥ずかしいくらいまだまだだ。写真は思い出を蓄えるだけでなく、私を振り返らせてくれる。「これでよいのか、チョンさん、かなり頑張りが足らないのではないかしら？」と。

（ ちょんちょみよ
教授 古代韓国・朝鮮史 ）



チュンちゃん、 たった3日の家族

塚本 文美

これは雀の子（メス）の写真である。この子の名前は『チュンノ助』。ニックネームは『チュンちゃん』だ。私が高校2年生の模擬試験の帰り道、その日は珍しくMDを持って行かなかった。だから私は自分の周りの音を聴きながら歩いていた。帰り道の間くらいまで来た時、歩道の端っこで“チュンチュン”という鳴き声が聞こえたような気がした。気になったので近寄ってみた。それがチュンちゃんとの出会いだった。放っておいたら犬や猫に殺されてしまうと思い、早速家に連れて帰った。翌朝、あの手この手でようやくエサを食べさせることができたので彼女はとても元気になった。この写真は私がその日、学校から帰ってきた時に写したものである。彼女は本当によく食べ、よく鳴き、よく歩き回った。うまくいけば空へ帰せるかもしれないと思った。私は普段、あまり写真を撮らないが彼女があまりに可愛いことと、いつか空へ放した後「そういえばこんな子がおったな」と思い返す時に見られるように珍しく携帯のカメラのシャッターを押した。「チュンちゃん」と呼びかけるとこっちを向くのでその瞬間に撮るつもりだったが、タイミングがずれてなかなか成功しないので諦めてしまった。

私はこの頃色々なことがあって本当に落ち込んでいた。17歳の誕生日からずっと踏んだり蹴ったりで、とても暗い人間になっていた。毎日どんよりして暮らしていた。でも、チュンちゃんがいたお陰で少しはマシになった。私は彼女がどのように成長していくかを考える



のが楽しみで、早く空を飛べるようになっていいなあと思っていた。

3日目の朝、彼女は鳴かなかった。箱をのぞいてみると羽を伸ばして仰向けにひっくり返っていた。昨日はあんなに元気に鳴いっていたのに……。リビングから母の泣き声が聞こえてくる。母の泣き声を聞きたくなかったので音楽をかけながら学校に行く仕度をした。この日から写真は遺影になってしまった。何で死んでしまったのか。その理由は今でも分からない。(チュンちゃんのお母さんに会いたかったやろうになあと思うと、あの時家に連れて帰って本当に良かったのか分からなくなってくる。私の母は「チュンちゃんが歩き回っていたのはお母さんを探してたんとちゃうか」と言っていた。友達は「犬や猫に殺されるよりはいいと思う」と言って私を慰めてくれたけれどやっぱり辛い。しかも、その何ヶ月か後にテレビでひな鳥を拾った人が、「ひな鳥が落ちているすぐ近くに巣があることが多いから、ひな鳥を見つけたらその周辺で巣を探すといい」と言っていたので余計に分からなくなってしまった。ただ私にできることは、今度ひな鳥を拾ったらまず巣を探すことである。

（つかもと あやみ）
（文学科 第1学年）

CONTENTS

- p. 2 …お気に入りの一枚
- p. 6 …CAMPUS☆TOPICS
- p. 18 …Keiji☆Ban
- p. 26 …「ハラスメント防止のためのガイドライン」制定について
- p. 30 …2007年度 同窓会支部巡回講演会開催一覧
- p. 31 …2007年度 課外活動 春季大会結果
- p. 32 …学問のしおり
- p. 33 …谷大エリア散策
- p. 34 …写真でふりかえる大谷大学今昔
- p. 35 …研究室だより／学会だより
- p. 36 …大谷中学校・高等学校からのお知らせ
九州大谷短期大学からのお知らせ
- p. 37 …出版物紹介
- p. 38 …学生相談室から／学生数
- p. 39 …2008年度 入学試験日程
- p. 40 …TANIDA I FRONT
- p. 42 …財務の概況
- p. 48 …SQUARE

表紙のことば

2号館前の丸太イス
同窓生からこころのこもった贈り物
そのことはほとんど知られていないけれども、ここに集まり
談笑し、憩いの場となっている
私のお気に入りの一枚だ

冬扇

詳しくは「夏炉冬扇」という。夏の炉や冬の扇のように役にたためことの意味に用いる。ここでは役にたつたない次元をこえて一筋の道に生きる精神をあらわす。

2007年7月9日発行
発行 大谷大学企画室
編集 大谷大学広報編集委員会
〒603-8143
京都市北区小山上総町 大谷大学企画室内
電話 (075) 411-8115
FAX (075) 411-8149



「記録と表現」

川上 源太

私はこの写真を気に入っている。
なぜなら、この写真にはこの写真を撮影しようとした時のそのままの感情が表現されているからである。
カメラはNikonのF100で28mmの広角レンズを入れた。
この写真を撮ったのはお昼の2時過ぎだったと思う。
この日、私はいつものように昼過ぎに起きた。
用事はなく、そして起きた時にはいつものように一人だった。
そんな時私は部屋に転がっているカメラに手を伸ばした。
そしてそのままずっと歩いて、そして立ち止まってシャッターを切った。
この写真には目立ったものは何も写されていない。
しかし、それこそがこの写真を気に入っている理由である。
日々、時を過ごすと共にうすらうすらと欠落していく希望感。
そしてそんな肥大した絶望感と共に起きあがり浮かび上がる現実。
そしてその気持ち全てを込めて私はこの写真を焼いた。
また、この写真は私たちにもうひとつの問いかけをしているように私は感じるのである。
目の前に何があるのかよくわからず、そしてそれと共に大きくなる不安。
そんな中で撮影されたこの写真。
何も写っていないように見えながら、実は写っているのは絶望だけではない。
そうそれはまさしく目の前に現れ、そしてすぐに飛び去っていく私にとっての現実という時の欠片そのものが残されている。



この時私は今を生きる私たちと同じように生命を炎やしていたのだ。
そしてこの写真を再び見返した時、私は今もこのリアルに生きていた自分を確認した。
写真は大きな2つの楽しみを兼ね備えている。
それはまず被写体に対してレンズを向ける「写真を撮る」楽しさである。
そしてもうひとつは、今は無きもう過ぎ去ってしまったその時の感情が写真を見ることによって再び蘇ってくるという「写真を見る」楽しさである。
この写真は私にとってこの2つの楽しみを兼ね備えていた。
だからこそ、私はこの写真を気に入っているのである。
そして私は常々写真に対してはこう考えている。

写真家たちは常に苦悩してきた。それは写真という物事において、その中に最初から対立する概念が組み込まれていたからである。

「記録と表現」

この2つの単語に多くの芸術家たちは敗れ去っていった。
自分は記録するために写真を撮っているのか。
自分は表現するために写真を撮っているのか。
写真という道において、常にその課題から逃げるができず大きな苦悩と共に自分の道を失っていった。
しかし、それを分けて考えようとしていること自体が大きな過ちであることに多くの写真家は気付くことが少なかった。
写真において「記録と表現」というこの二つの単語を切り離すことはできない。
完全なる芸術表現をめざしたところで写真にはあまりにも動かせない事柄が多く存在する。
それは何を覆ったとしても、何を省いたとしても、何を作ったとしても、それは作者の目の前に現れているリアルの断片でしかないのである。
そして表現からはかけ離れ、写真

本来が持つ写実性を最大限に生かそうとしたとしても、写真が存在するという物事において作者の思想なしでは存在することを許されないのである。それは防犯のために作動し、記録

し続けている防犯カメラでさえ、犯人を明らかにしたいというその思想を基にでき上がっている物事だからである。

写真における「記録と表現」、それは目の前の現実において完璧な

どこの世に存在しないという当たり前の事実を証明してくれているのではなかろうか。

(かわかみ げんた)
正宗学科 第4学年



Priceless —お金でかえない価値がある—

森脇 公久

「ボランティアですか？そんな一銭の金にもならないもの、僕は興味ないですよ！」と銀行員時代に言っていた。しかし、この大学に転職し、教務部で社会福祉関連の業務を担当してから、銀行員時代の先輩に再度薦められたときに、「まあ先輩がそこまで薦めるのなら、僕もちょっとやってみようかな？」と、少し興味を覚え、軽いノリで始めた。それ以来、アウトドアクラブに参加した雰囲気や、子どもたちとふれあうことがとても楽しく、またそこで知り合った多くの仲間たちに惹きつけられて、早いもので今年の5月で2年が経った。

私が所属している団体は、日帰りの野外活動(アウトドアクラブ)やキャンプを通して、子どもたち(小学生・中学生)に自然の大切さや、仲間の大切さを伝えていくことを中心に活動している団体。10名のスタッフと15歳～30歳までの約100名のボランティアリーダーが所属している。

この写真は、私が2年前に参加した夏キャンプで仲間のスタッフに撮影してもらった1枚。灼熱の太陽の下、8人の子どもたちと一緒に3泊4日を過ごした、笑いあ



中央が筆者

り、喧嘩あり、涙あり、そんなキャンプでのたくさんの思い出がぎゅっしりとつまっている。今でもたまたま写真を眺めてはその時の出来事を思い出す、私にとっての大切な宝物。もちろん、今まで数多く参加したキャンプやアウトドアクラブでのたくさんの写真は、どれも私にとっては宝物だが、やはりこの写真が中でも一番のお気に入りだ。

それは、この写真の撮影前にしたゲームで、何度挑戦しても勝てなくて、子どもたちと勝つために色々と作戦を必死で考えていた。結果的には、作戦は見事の中したが、惜しくも1番にはなれなかった。それでも、グループの8人みんなが一つになって真剣に取り組

み、持てる力の全てを出し切ることができた。この写真を見るたびに、その時のみんながゲームに取り組む真剣な姿と、終わった後の満足そうな笑顔が忘れられない。

ボランティアを始めることにより、この写真も含めて、お金でかえない価値がある、出会いや仲間、そして数々の体験や思い出をたくさん得ることができた。もし、私があの時損得勘定だけで判断していたら、きっと何一つ得ることができなかつただろう。

また、今年も暑い、そして私にとってはこの団体での最後の夏が始まろうとしている。

(もりわき ひろひさ)
教務部 職員

加藤尚子先生を偲んで



国際文化学科教授・加藤尚子先生が、6月3日(日)午前11時、急逝されました。享年63歳でした。先生の悲報に接したのは、6月4日朝、急用で実家にいたときでした。「エッ! まさか…!」絶句した私は、その場に座り込んでしまいました。3年ほど前に1度入院された折も、ほどなく復帰され、今回も無事退院されるものとばかり思っていました。実際、新年度の幼児教育保育科の授業も始めてくださっていたのです。しかし、もう、2度とお会いすることはできなくなってしまいました。

加藤先生は、奈良女子大学理学部生物学科(植物学専攻)を卒業され、京都大学理学研究科(植物学専攻)に進まれ、「バクテリオ・ファージT3の頭部形態形成」の研究で博士号を取得されて、1976年4月

に大谷大学に着任されました。所属は短期大学部幼児教育科(現幼児教育保育科)でしたが、文学部も兼任され、ともに自然科学概論と化学を担当されました。やがて保育内容の「自然」(現在は「環境」と「仏教保育総合ゼミ」(現在の「仏教保育演習」)を担当され、さらに「保育総合演習」もご担当くださいました。1997年4月から2003年4月に文学部・国際文化学科に移られるまで、幼児教育科の主任もお引き受けくださり、移られてからも、保育内容の「環境」と野外活動の授業をご担当くださいました。

加藤先生の、素直で率直なお人柄は、たいへん親しみやすく、何でもお話できました。特に主任になってからには、先生の下でいろいろと仕事をさせていただきました。先生も私とともにストレートな性格であるため、時に正面からぶつかり合うこともあり、長いときには7時間も8時間も語り合ったことでした。先生は、問題・課題にまっすぐ向き合う、本当に正直な方でいらっしゃいました。ごまかしのないその姿勢は、

一緒に仕事をしていて、気持ちのよいものでした。

先生のご専門である分子生物学・分子遺伝学について語る力は私にはありませんので、先生が『大谷大学広報』60-2号(1985年発行)・63-2号(1988年発行)等にかかれたエッセイをご覧くださいと思います。

研究者としても評価されておられた先生は、1986年9月から1年半、スイスのバーゼル大学に客員教授として招聘され、在外研究をされました。理系の研究者として厳しい研究姿勢を持っておられた先生は、筋の通った明瞭な姿勢で教育にも当たられ、学問研究も教育も自分に甘くなればだめになってしまうことを教えてくださいました。

今はもう彼岸へと旅立ってしまわれましたが、花がお好きだった先生と一緒に花見やハイキングに行った写真と、スイスから送ってくださった数枚のポストカードとが、形見として手元に残っています。

先生、本当にお疲れ様でした。ありがとうございました。

(幼児教育保育科主任 大城邦義)

人 事

センター長の交代

[人権センター長]

藤嶽 明信

(前人権センター長 泉 恵機)

2007年4月1日付

退 職

[教育職員]

加藤 尚子 (教授・文学部)

2007年6月3日付

新規採用

[事務系嘱託]

田中 恵理

(入学センター)

2007年5月1日付



鈴木幹雄先生、若槻俊秀先生に名誉教授の称号おくられる

大谷大学名誉教授称号授与規程に基づき、本学の教育上また学術上、特に功績のあった先生におくられる名誉教授の称号が、鈴木幹雄先生(倫理学・フランス現代思想)、若槻俊秀先生(中国哲学史)におくられました。

授与式は4月2日(月)に学長室において行われました。

(総務課)



鈴木幹雄名誉教授(左)



若槻俊秀名誉教授(左)

卒業生の福江充さん、第3回日本学術振興会賞を受賞

この度、本学卒業生の福江充さんが、第3回日本学術振興会賞を受賞され、授賞式が3月2日(金)に日本学士院で行われました。

日本学術振興会賞とは、独立行政法人日本学術振興会が、優れた研究を進めている若手研究者を見出し、先駆的な研究を支援することにより研究意欲を高め、我が国の学術研究の水準を世界のトップレベルにおいて発展させることを目的として設置されているものです。

今回、受賞された福江充さんは、1989年に本学大学院文学研究課程を修了され、その後、富山県〔立



福江充さん

山博物館〕の学芸員として従事しつつ、立山信仰にかかわる研究活動を行っておられます。受賞の対象となった研究業績は、「近世立山信仰の展開」(The Actual Development of Tateyama Beliefs during the Edo Period)であり、「立山信仰の特質を歴史民俗学的視点から考察し、民俗資料から仏教美術に至る各種の史料と寺坊等に残る膨大な近世文書群を博搜して立山信仰衆徒の勧進布教活動の実態を解明し、この分野で他の追随を許さない成果を挙げた。」との高い評価を得ています。

また、福江さんの地元である富山県から平成19年度とやま賞をあわせて受賞され、授賞式が5月24日(木)に富山国際会議場で行われました。とやま賞とは、富山県ひとづくり財団が、富山県出身者、または富山県内在住者を受賞対象者とし、学術研究、発明発見、芸術文化、スポーツの分野において

顕著な業績を挙げ、富山県の将来を担う有為な人の育成に資することを目的に設置されているものです。

福江さんは今回の2つの受賞について「たいへんうれしい。大谷大学で日本仏教史学を学んだが、その間、佐々木令信先生が野外授業で各地の寺社や史跡、博物館などによく連れて行ってくださったことや、サークル活動(古美術研究会)に没頭したことが、この道に進むきっかけになったと思う。現在の研究活動にも大いに役立っている。」と述べられています。今後ますますのご活躍が期待されます。(企画室)



日本学術振興会賞授賞式の様子(2列目左端が本人)

大学院修士課程第2学年難波教行さん、自叙伝を出版

本学大学院修士課程真宗学専攻第2学年の難波教行さんが、講談社から『たとえば、人は空を飛びたいと思うー難病ジストニア、奇跡の克服ー』を出版されました。

難波さんは、小学2年生のころに難病「ジストニア」を発症し、右手のコントロールを失い、それから成長と共に病気は進行し、大学入学時には体がゆれ続けて歩く



難波教行さん

ことさえ困難な状態となりました。

しかし、難波さんは、そのような状態のなかでも明るさを失わず、家族や友人など多くの人たちに支えられながら、2003年4月に「アクティブ振戦コントロール治療」という最先端医療の手術を受けジストニアを克服しました。

今回出版された自叙伝は、難波さんの半生を振り返りながら、難病を克服していった経緯やその中で感じた様々な思いを綴った手記です。

今回の出版にあたり難波さんは「この本には、僕が障害者として考えてきたこと、人に助けられる喜びと共に“当たり前”と思っているすべてのことは、実は感謝でき

る素晴らしいことなんだ。”という思いをこめました。“ただ歩けるようになる”という願いに向かって歩んだ医学の力、家族の愛、友達に支えられた僕の奇跡への軌跡をぜひ読んでください！」と話してくれました。(企画室)



坂本英之さんが最優秀投手賞を受賞

本学文学部史学科第4学年坂本英之さんが京滋大学野球連盟春季リーグ戦において最優秀投手賞に選ばれました。また、ベストナインに、同史学科第3学年小林憲児さん、同人文情報学科第2学年谷川慎吾さんが選ばれました。

今回の受賞について坂本さんは「昨年の秋季リーグ戦で調整がう

まくいかずチームに迷惑をかけたので、冬から春に向けて下半身を中心に鍛え直しました。そして、リーグ戦ではチームメートの助けもあり、この賞をいただけたと思っています。この結果に満足することなく秋季リーグ戦でも頑張りたいと思います」とコメントしてくれました。(学生課)



坂本英之さん

本学卒業生が手記を出版

本学短期大学部幼児教育科(現幼児教育保育科)1986年卒業生の近藤幸子(ペンネーム：山岡瑞歩)さんが、2007年4月に著書『これでもけっこう幸せだ。自閉症の息子とともに』を草思社より出版されました。

一緒にいられるのは小学校卒業まで…。いつもキラキラの笑顔で走りまわり、生きる喜びを全身であらわしている息子。この一瞬一瞬を、ずっと残しておきたいという思いと、障害を持つ子どもの

「親」へのエール、障害に対する理解と啓蒙、また障害の有無にかかわらず「親」であることの素晴らしさをテーマに、この度の著書は執筆されたものです。

近藤さんは「障害が大きな問題となっている今日、専門家や医師ではなく、ただの母親が見つめ続けてきたもの、それが、これから保育、教育の場をめざす学生の皆さんの心に少しでも何かを伝えられれば幸せです。普通に過ぎ行く時こそが本当に光かがやく幸せな

のだと伝えたい」と話してくださいました。

(企画室)



オルタンシア15周年記念演奏会に幼児教育保育科学生が出演

3月25日(日)、本学講堂を会場に、京都市立紫明小学校校友会コーラス同好会「オルタンシア」の結成15周年記念演奏会が開催されました。

今回の記念演奏会では、京都市北区役所の地域交流推進事業「北

区 地域と大学つながるネット」を通じて本学学生への出演協力依頼があり、幼児教育保育科第1学年の有志学生で結成された「劇団あみーご」が出演しました。

演奏会は全4ステージで構成されており、「劇団あみーご」は3ステージ目に出演し、オペレッタ「ねずみのけっこん」を上演しました。「劇団あみーご」のメンバーのひとり伴広大さんは、今回の記念演奏会に協力参加したことについて「今回の発表は、選考会からしばらく間があき、会場は講堂、そして一般の方を対象としていたため、はじめは戸惑いまし

た。しかし、春休み中にみんなで集まって練習をし、意見を出し合っただけで前回よりも良いものになることができました。この経験を今後につなげていきたいと思っています」と感想を語ってくれました。

(企画室)



オルタンシアの皆さん



「ねずみのけっこん」の一場面

留学生のためのバザーを開催

4月4日(水)～9日(月)にGLOBAL SQUAREにおいて留学生のためのバザーを開催しました。

このバザーは、新しく留学生を迎える4月に、留学生が少しでも早く生活環境を整え研究に専念できるように、本学教職員に品物の提供を呼びかけ実現しました。初めての試みでしたが、80点あまりの品物の提供があり、留学生はバラエティーにとんだ品物を念入りに確認しながら楽しそうに選んでいました。欲しい品物が決まった

留学生は希望商品番号を書いた申込用紙を提出し、バザー最終日に抽選会を行いました。抽選会は都合がつかず欠席した留学生もいましたが、それぞれ自分の希望する品物が手に入ったようです。抽選会終了後に受け取った品物を留学生が自分で包装をし、一度では持って帰れないため回数にも分けて持って帰っていた様子が印象的でした。

GLOBAL SQUAREでは、今後も定期的に留学生のためのバザー

を開催していきます。

(GLOBAL SQUARE)



バザー会場の様子

若葉祭を開催

新入生を歓迎する若葉祭が4月7日(土)に開催されました。当日は昼から小雨が降り始め、夕方まで降り続きましたが、無事に予定どおりの若葉祭を開催することができました。

特設ステージは、音楽系のクラブや同好会によるライブで始まり、学園祭実行委員会によるイベント、10月に開催が予定されている第5回京都学生祭典からの創作ダンス、そして最後はビンゴゲームで締めくくられました。イベントでは豪華賞品が用意され、大勢

の新入生と在生が一緒に楽しんでいました。

構内に設けられたテントでは、各クラブによる新入生の勧誘が行われ、クラブの説明を聞く新入生と各クラブ員の楽しそうなやりとりが見られました。新入生歓迎実行委員会の本部テントでは、「なんでも相談コーナー」が置かれ、新入生からの質問を親身になって答えている実行委員の姿が印象的でした。

また1号館の各教室でも、文化系のクラブなどが、勧誘のほか、

活動記録や作品の展示、また催しものを企画し、新入生のみならず在生たちも見入っていました。

(学生課)



クラブ勧誘の様子

留学説明会を開催

5月10日(木)メディアホールにおいて留学に関心のある学生を対



説明会の様子

象に留学説明会を開催しました。

説明会では大谷大学の留学制度を中心に単位履修の注意点や外部機関の奨学金を紹介しました。あわせて、大学を休学して留学をする場合の手続きと卒業後の進路を考えるにあたっての留学の心構えなど、実りある留学を実現させるために不可欠な情報を幅広く網羅

した内容で説明を行いました。

この説明会の内容はGLOBAL SQUAREホームページ (<http://web.otani.ac.jp/gs/>)でも公開しており、当日参加できなかった人も説明会の内容を確認することができます。

(GLOBAL SQUARE)

高大連携事業に関する協定を締結

5月16日(水)、本学は府立山城高等学校、京都両洋高等学校、大谷高等学校と、高等学校教育と大学教育との密接な連携をめざして、高大連携事業に関する協定の締結を行いました。

昨今の高等学校教育においては、総合科目の開設等によりその学習内容が多様化してきており、また、高等学校教育から大学教育への接続教育が課題となっています。

そこで、本学では今年度より「高大連携推進室」を設置し、学問研究の基礎能力である読んで理解する力と、考えて表現する力を養うプログラム開発を行い、各校

ごとに担当教員を派遣してプログラムの詳細を検討するとともに、これを契機として、より人間性豊かな生徒の教育に協力して取り組むべく、協定内容の調整を行いました。

今回の協定による最初のプログラムとして「小論文セミナー」を開講し、大谷高等学校は5月17日(木)から全6回、京都両洋高等学校は5月18日(金)から全11回、山城高等学校は6月1日(金)から全4回と、それぞれの高等学校に応じたセミナーが開講されています。(企画室)



左から谷野山城高等学校長、木村学長、角田京都両洋高等学校長、真城大谷高等学校長



小論文セミナーの様子(大谷高等学校)

木村学長の中国訪問

◎浙江財経学院と学術交流協定を締結

5月8日(火)、中国杭州の浙江財経学院と学術交流協定を締結しました。浙江財経学院は、13の学院(学部)、学生数約17,000名、教員数約800名の1974年に創立された総合大学です。

外国語学院(学部)には日本語语言文学専攻があり、日本文化・経済研究所が併設されています。同学院の教授で日本文化・経済研究所長の王麗萍博士は本学の卒業生であり、本学から同研究所へ日本語書籍を寄付したことがこの交

流協定のきっかけとなりました。

5月8日午後、浙江財経学院において木村学長と王俊豪院長(学長)が両校の交流活動について協議、合意に至り協定書に調印しました。今後、具体的な交流活動が活発に始まることに期待が寄せられます。

◎普陀山佛学院の訪問

浙江財経学院の訪問に続いて5月9日(水)から12日(土)まで木村学長、八木教育研究支援課長、長谷川慎非常勤講師が、普陀山佛学院と廈門大学を訪問しました。

普陀山は浙江省舟山群島の東部にある周囲20kmの島で、五台山、峨眉山、九華山とならぶ仏教四大聖山のひとつです。普陀山佛学院の副院長・教務長の門肅法師は、2000年に本学において外国人留学研究生としての木村学長指導のもと仏教学を学んでいらっしゃいました。現在は、後進の指導や寺院建立のため精力的な活動をしていらっしゃいます。木村学長をぜひ、普陀山へご招待したいという門肅法師の願いが実現し、今回の再会となりました。門肅法師の案内のもと、建築中の中国佛学院教育学院の見学、中国仏教協会副会長の戒忍法師との会談、木村学長の特別講義も開催されました。大谷大学の仏教学研究者の佛学院への派遣要請など、今後の交流について合意がなされました。

◎廈門大学人文学院で学術講演

廈門大学人文学院(学部)哲学系(学科)宗教学教育研究室の副



学術交流協定書に調印する王俊豪院長(左)と木村学長



門肅法師(左)と木村学長

教授、林観潮博士は本学博士後期課程仏教文化専攻を2004年に修了した同窓生で、現在、本学同窓会の中国支部副支部長でもあります。また、外文学院日本語学科の呉光輝副教授も本学で研修員として在籍しておられた方です。今般の木村学長の中国訪問にあわせて、廈門大学人文学院での木村学長の学術講演会を企画されました。

5月12日(土)廈門大学と隣接す

る南普陀寺・閩南佛学院講堂において「大谷大学の古典籍と中国文化の研究」と題して行われた木村学長の講演には、廈門大学と閩南佛学院教員・学生あわせて約400名が出席し、熱心に聞き入っていました。また講演終了後、熱心な意見交換が行われました。

講演に先立って木村学長は呉世農国際交流担当副学長と会談を行い、今後の両大学の交流について協議を行いました。今後の両大学

の交流が期待されます。

(教育研究支援課)



廈門大学学生・閩南佛学院生へ特別講義する木村学長

中国揚州 仏教教育論壇 (Buddhist Education Forum) に出席

5月17日(木)、18日(金)の2日間にわたり中国揚州で開催された仏



大内図書館長の発表の様子

教教育論壇 (Buddhist Education Forum) に大内文雄図書館長が出席しました。仏教教育論壇は、江蘇省仏教協会と鑑真学院の主催で仏教教育を行う大学や仏学院など27の機関が参加し、それぞれの建学の理念や歴史、仏教教育の現状や課題などについて発表、協議するために開催されたものです。

開会にあたっては、台湾佛光山寺の基金を元に揚州大明寺内に設立された鑑真学院・鑑真図書館の設立開幕式が行われました。鑑真図書館の館長には1973年に本学修

士課程を修了され、現在佛光山教育院院長、佛光大学執行理事などの要職を兼務しておられる慈恵法師が就任しておられます。

仏教教育論壇の本学発表では、大内図書館長は、初代学長清沢滿之が『開校の辞』の中で語った「我々に於いて最大事件なる自己の信念の確立」という言葉を紹介し、大谷大学が実施している「人間学」の授業や全学生に配布している学生手帳の紹介をしました。

(教育研究支援課)

首都師範大学が本学を表敬訪問

5月22日(火)、中国の学術交流協定校のひとつである首都師範大学(北京)の王万良副学長、方平教育科学学院副院長、李丹明副教授の3名が木村学長を表敬訪問されました。3名の先生方は、総合研究室や図書館、GLOBAL SQUAREを見学されたあと、三宅伸一郎講師の解説のもと、博物館2007年度夏季企画展を熱心に観覧されました。また、後期より首都師範大学に留学予定の国際文化学科第3学年田中達士さんが留学の

挨拶をし、王万良副学長から激励を受けました。

首都師範大学とは、1997年に学術交流協定を締結し、その後学生や教員の交流などが活発になされています。昨年は新たに「学部学生教育に関する共同学位授与プログラム実施協定」の締結や李青准教授が首都師範大学で在外研究を行うなど、交流はますます密接になっています。

木村学長との懇談の席でも、熱心な意見交換が行われ、交流のさ

らなる推進が約束されました。

(教育研究支援課)



学長室での記念撮影
李副教授、木村学長、王副学長、方副院長
(前列左より)

木村学長の韓国訪問

◎東西大と学術交流協定を締結

6月5日(火)、韓国釜山の東西大と学術交流協定を締結しました。調印式では木村学長と朴東順東西大校長が協定書にサインをしたあと、大谷大学校章を印字したパネルを調印室にはめ込みました。

東西大は1992年に設立されたキリスト教の精神を建学の理念とする総合大学で、時代の最先端をいく情報設備を完備し、14学部を擁しています。また、2003年に日本研究センターを設立し、日本との交流にも力を注いでいます。

東西大との交流は本学短期語学研修団の送り出しや東西大出身の学生受け入れなど、10年以上前からすでに始まっており、2000年に本学で博士号を取得された金大植氏が日本語日文学科教授として活躍をしておられます。今回、



調印後握手する朴東順総長(左)と木村学長

学術交流協定が正式に締結されたことで、宗教を基盤とする両校の交流がさらに緊密になることが期待されます。

◎東國大慶州キャンパスを訪問

6月4日(月)、5日(火)に木村学長、藤島名誉教授・同窓会長、喜多講師と国際交流担当の職員が韓国の学術交流協定校である東國大慶州キャンパスを表敬訪問しました。

東國大はソウルと慶州にキャンパスを持っており、1997年の学術交流協定締結以来、主にソウルキャンパスとの共同研究や学生の交流を進めておりましたが、今後、慶州キャンパスとの交流を具体的に始めるにあたり表敬訪問をしました。

◎韓国帰国留学生同窓会開催

6月6日(水)、韓国釜山のロッテホテルにおいて韓国同窓会設立記念式を開催しました。

韓国帰国留学生数は15名になり、海外での同窓会支部の設立は、昨年の中国に引き続いて2つ目となります。

韓国同窓会設立記念式には、韓国帰国留学生の方や在学中に韓国

へ留学をしていた日本人卒業生の方など14名が韓国国内や日本からご参集くださり、大谷大学からは、木村学長、藤島同窓会長、大桑名誉教授、喜多講師など8名が出席しました。

この記念式において、大谷大学同窓会の韓国支部として「韓国同窓会」の発足が承認され、藤島同窓会長が金大植東西大教授を韓国同窓会の会長として任命しました。金大植氏は就任の挨拶の中で、大谷大学留学当時の懐かしい思い出を振り返られ、韓国での同窓会開催を喜ぶとともに今後の韓国同窓会の発展に代表として努力をしたい、と述べられました。

記念式のあとは、釜山市内の日本食レストランで懇親会が開催され、出席者のみなさんは教職員との再会を喜び、友人との歓談を楽しんでいました。

(教育研究支援課)



韓国同窓会設立記念式にて

大谷学会春季公開講演会を開催

去る5月24日(木)、大谷学会春季公開講演会がおおよそ500名の聴衆の参加のもと開催されました。今年度の講師・講演題目は以下の通りです。

大谷大学教授 沙加戸弘氏
「元禄文学再考——『かね』ではかる『ころ』と『いのち』」

東京大学教授 岩井克人氏
「貨幣・法・言語と『人間』」

沙加戸教授は、国文学とりわけ江戸文学の専門の立場から、江戸時代における「高度経済成長」の結果として元禄期に文学史上はじめて登場してきた「かね(金)」について講演されました。西鶴や近松において登場する具体的な数字



沙加戸弘氏

をとまなう「金」と、それに翻弄され、ついには「死」をも選ばざるを得なくなった人間の姿を、「沙加戸節」ともいえる独特の口調で「講釈」なされました。

岩井先生は、経済学の立場というよりも人文社会科学の立場から、現在、人間の科学つまり「本当の意味での人間学」がいかに成立するのかを、「宇宙人から見た

貨幣・法・言語」というシンプルかつ本質的な観点から論じられました。物理的、感覚的存在ではないが、人間にとっては欠くことのできない貨幣・法・言語そしておそらく宗教というリアルな実在を考察することこそ人間学であると、クリアにかつ緻密に示してくださいました。(大谷学会)



岩井克人氏

「宗祖誕生会」 厳修

宗祖誕生会が6月2日(土)午前10時から、講堂において、学園理事を始めとする来賓、教職員、在学生、一般来聴者約400人の参加を得て厳粛の内に厳修されました。

勤行に引き続き、学長挨拶、記念講演が行われました。

今年度の記念講演は、講師に東北大学大学院文学研究科教授佐藤弘夫氏を迎え「専修念仏弾圧の歴史的背景」と題した講演をいただきました。

最初に東北大学のある仙台市の青葉山キャンパスにある板碑の紹介から、東日本を中心に鎌倉時代

以降150年間に約10万の板碑が立てられた理由を、古代寺院から中世寺院への移り変わり、国家仏教から寺院が自立を迫られた時代背景を基にお話いただきました。

また、往生極楽を願って立てられた板碑は、浄土へいざなう垂迹であるとされ、中世寺院の経済的支えとなっていたことを指摘されました。

そして、往生極楽を願っての寺院、仏像の建立や、板碑を立てることは自力であり、それが可能な一部の人の救済であったのに対し、本願による救済、他力、平等を説く法然の教えが、結果的に当

時の寺院の経済的基盤を危うくするものと解され念仏弾圧へと繋がったものと考えられるとのお話をいただきました。

(総務課)



佐藤弘夫氏

NPO法人 尋源舎 設立される

このたび、本学同窓会のバックアップにより「NPO法人 尋源舎」が設立されました。

同窓会では、数年前から同窓会活動企画推進委員会を設置し、近年停滞気味であった同窓会活動の活性化を図るため、さまざまな検討がなされました。その成果として、これまで「同窓会学生支援表彰」や「同窓会うどんへの補助」、「同窓会うどん専用麺鉢の製作」などの学生支援事業を行ってきました。しかし、今後さらに新たな

事業を実行するためには、社会的に責任を負える法人格が必要であるとの結論に至り、NPO法人の設立を構想し、京都府より設立が認証されました。

NPO法人 尋源舎は、“仏教及び人間学に関わる領域を公開して、社会に貢献すること”を目的としています。今年度の事業としては、毎年、同窓会の各支部で開催されている巡回講演会の一部(2007年度は福島県支部、上越支部、郡上支部の3支部)を尋源舎

との共催による「仏教公開セミナー」として開催するほか、仏教と社会諸科学との対話を通して、人間と社会の諸問題を深く研究し意見交流するための「尋源仏教塾」を一泊の合宿形式で実施します。

今後、さまざまな事業を展開する予定ですので、学生の皆さんもぜひ活動に参加してください。

NPO法人 尋源舎ホームページ
<http://www.zingensya.jp/>

(校友センター)

京都の大学『学び』フォーラム2007 開催

6月17日(日)キャンパスプラザ京都を会場に、大学コンソーシアム京都と京滋私立短期大学協会の共催による「京都の大学『学び』フォーラム2007 「短期大学の魅力がわかる」スペシャルバージョン」が開催され、本学のほか、京滋の大学、短期大学44校が参加しました。

今回のイベントでは、短期大学の魅力を伝えることをコンセプトに、従来の『学び』フォーラムで



模擬講義の様子

の模擬講義や体験コーナーに加え、短大入門セミナーや短期大学生のトークイベントが開催されました。

トークイベントには、本学から井上秀憲さん(仏教科第2学年)、和順かさねさん(史学科第3学年)、向井佑二さん(幼児教育保育科第2学年)が参加し、それぞれ「教養文化を学ぶ楽しさ」、「併設短大のメリット」、「幼児教育を学ぶ楽しさ」について、現在の学生生活の様子も交えながら話してもらいました。

また、向井さんはトークイベント終了後、模擬講義「からだで関わる歌あそびーぱたぱた絵本を作ってみよう」にも協力していただき、担当の井上摩紀准教授指導のもと、参加した高校生たちとダンスや手遊びをしたり、ぱたぱた絵本をつくるのを手伝って、授業を

盛り上げてくれました。

(企画室)



井上秀憲さん



和順かさねさん

大谷大学オリジナルグッズが完成

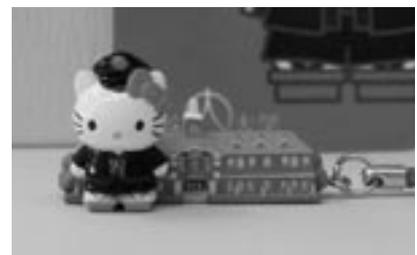
大谷大学オリジナルグッズとして、オリジナルタンブラーと



HELLO KITTYストラップが完成しました。

オリジナルタンブラーの価格は900円です。持参するとBig Valley Cafeにて、全てのドリンクが20円引きで購入できます。また、ストラップは尋源館をモチーフにしたもので450円で販売しています。ともにBig Valley Cafeと購買部で

販売していますので、ぜひお買い求めください。(企画室)



本学における個人情報の取り扱いについて

本学が保有する学生諸君の個人情報には、氏名のような、そのみで特定の個人を識別できる情報以外にも、生年月日・住所・電話番号・電子メールアドレス・印鑑の印・性別・学生番号・成績・人物評価・聴講登録のように、個人の属性、所有物や関係事実等を示す情報によって、その個人の氏名等が容易に照合でき、特定の個人を識別することができるものがあります。個人情報保護法のもとでは、それらの全てが保護すべき対象となります。

本学では「個人情報保護に関する規程」により個人情報の保護に努めるべく、業務の取り扱いには十分慎重を期すように取り組んでいます。本学のような教育機関にあっては、保有する個人情報のほとんどが学生等に関する情報であり、個人情報の漏えい、滅失等があった場合、社会的に与える影響はたいへん大きいものになります。したがって、そのような事態が起こらないように、日頃から適切な対応を心がけております。

なお、本学が保有する個人情報の主な項目例、並びに利用目的や情報開示に関する取り扱いについては、以下に示すとおりです。

1. 保護の対象となる個人情報の項目例

(1) 在学生

身元・身上情報、学歴・学位情報、保証人情報、家族・親族情報、健康管理・医療情報、金融・信用情報、社会保険情報、学籍情報、履修・成績情報、学費納入情報、求職・進路指導情報、調査書情報、進路先・勤務先情報、奨学生（応募）情報、課外活動情報、施設設備利用情報、図書館利用情報、賞罰情報、免許資格情報、コンピューター利用情報

(2) 本学を離籍した学生等及びその保証人、父母、家族並びに親族

身元・身上情報、学歴・学位情報、保証人情報、家族・親族情報、健康管理・医療情報、金融・信用情報、社会保険情報、学籍情報、履修・成績情報、学費納入情報、進路指導情報、進路先・勤務先情報、奨学生（応募）情報、課外活動情報、図書館利用情報、賞罰情報、免許資格情報

(3) 在学生等の保証人、父母及び家族又は親族

身元・身上情報

2. 個人情報の利用目的について

(1) 本学は、学生諸君に係る上記の個人情報を、教育・研究を遂行するための業務に利用します。

(2) 本学は、学生諸君に係る上記の個人情報を、事務上の連絡、アンケート、調査等を目的に、電話、郵便、宅配便、電子メール、その他の手段により、必要事項を本人及び保証人に告知、送付するために利用します。

(3) 本学は、学生諸君に係る上記の個人情報を、大谷大学情報ネットワークシステム（OUNET）、学生向け情報提供システムのセキュリティを維持するために利用します。

(4) 本学は、学生諸君に係る上記の個人情報を、本学の教育・研究の自己点検、教育課程の開発、施設設備の利用状況の把握及び改善に役立てるために、コンピューター等を利用した統計・分析に利用する場合があります。

(5) 本学は、学生諸君に係る上記の個人情報を、本学が委託された調査、アンケートへの回答を目的に、コンピューター等を利用した統計・分析に利用する場合があります。但し、この場合本学から第三者に対して個人情報を提供することはありません。

(6) 本学が取得した個人情報の利用は、取得の際にあらかじめお知らせした範囲内に限るものとし、その目的以外の用途には利用しません。

3. 委託及び共同利用に関する事項

本学は、業務の遂行上、業務の全部又は一部を委託する場合、個人情報の守秘義務の管理、監督を含む契約を結ぶことにより、個人情報の安全管理措置を遵守して利用します。また、利用目的の範囲内で、大谷大学教育後援会及び大谷大学同窓会と個人情報を共同して利用する場合があります。

(1) 大谷大学教育後援会

学生諸君の個人情報として提供された保証人の名前、住所、連絡先については、本学が保有し、保証人により構成される教育後援会の活動を目的として同会が実施する『大谷大学通信』の送付、同会の案内送付のために利用する場合があります。

(2) 大谷大学同窓会

学生諸君の個人情報のうち、氏名、住所、電話番号（以上、卒業後に変更されたものを含む）、学生番号、性別、生年月日、卒業年月、入学年度、指導教員、学部学科分野研究科専攻、所属クラブについては、大谷大学同窓会と共同して保有し利用します。

4. 開示に関する事項

本学は、学生諸君の個人情報をできるだけ正確かつ最新の内容で管理します。本人から申し出があったときは、本学が保有する個人情報の開示を行います。また、内容が正確でないなどの申し出があったときは、その内容を確認し必要に応じて個人情報の追加、変更、訂正または利用の停止を行います。

5. 開示受付窓口

個人情報の開示は、個人情報の各管理窓口（教務部、学生課、進路就職センター、入学センター、教育研究支援課、図書・博物館課等の事務窓口）で受け付けます。開示には、時間がかかる場合があります。各窓口でお尋ねください。

個人情報の開示には、手数料がかかります。開示内容によっては、実費を請求する場合があります。

「個人情報保護に関する規程」は、本学のホームページ上に掲載されています。必ずお読みください。

データベースの利用について

教育研究支援部では、データベースの利用サービスを提供しています。図書館のホームページ「情報検索」から「データベース検索」を選択し利用してください。(NDL-OPACについては「NDL-OPAC国立国会図書館蔵書検索」を選択) 下記に、利用できるデータベースとその内容について紹介します。

☆図書や雑誌、論文の検索に・・・

国立情報学研究所

GeNii [ジーニイ] 学術コンテンツ・ポータル
主なデータベース

CiNii [サイニイ] (NII論文情報ナビゲータ)

- ・日本の学術論文を中心とした論文情報を得ることができます。

Weecat Plus (NII図書情報ナビゲータ)

- ・図書や雑誌を検索し、所蔵している大学図書館などを知ることができます。
- ・「連想検索機能」により、求めるテーマに関連する図書を効率的に探すことができます。
- ・明治期以前から毎週追加される最新の図書まで、一括して探すことができます。
- ・日本語図書、英語図書は、目次、内容情報を見ることができます。



※一部、学外から利用できないものがあります。

国立国会図書館蔵書検索 NDL-OPAC

雑誌記事索引など、国立国会図書館が提供する各種データベースが検索できます。

※学外からも利用することができます。

BOOKPLUS

日外アソシエーツが提供する昭和元年からの図書内容情報データベースです。

MAGAZINEPLUS

日外アソシエーツが提供する日本最大規模の雑誌・論文見出しデータベースです。国立国会図書館「雑誌記事索引」(1946年～)のほか同索引には未収録の論文・レポートなどのほか、シンポジウムや講演などの発表をもとに国内で刊行された人文・社会系の論文などが検索できます。

☆辞書・事典の検索は・・・

JapanKnowledge

ネットアドバンスが提供する辞書・事典を中心に構成されている、収録項目件数186万件(2007.6現在)をこえるデータベースです。

ネットで百科 for Library

日立システムアンドサービスが提供する、平凡社『世界大百科事典』を核としたインターネット百科事典検索サービスです。本文表示から国立情報学研究所が一般公開している図書検索サイト「Weecat Plus」へリンクし関連する図書をすぐに見つけることができます。

☆新聞記事の検索に・・・

聞蔵Ⅱビジュアル DNA for Libraries

朝日新聞社が提供するデータベースで、1945年から今日までの朝日新聞紙面が収録されています。

1984年までは、見出し語や分類で検索した結果を紙面イメージで表示することができます。1984年以降は全文一致型データベースで記事をテキスト表示します。さらに2005年11月以降の記事は「切り抜きイメージ」も掲載されています。

また、各都道府県が発行する地方版、『AERA』『週刊アサヒ』の記事も従来どおり利用できます。



毎日Newsパック

毎日新聞社、ジー・サーチが提供する毎日新聞記事データベースです。各本社、支社が発行する新聞記事、および都道府県の地方版の記事が収録されています。

また、1998年6月からの記事中の写真、図表も収録されています。

ヨミダス文書館

読売新聞社が提供する読売新聞記事データベースです。本版、地方版に加え、英字新聞『The Daily Yomiuri』の記事が検索できます。

☆就職活動の情報収集やパソコン・ITのスキルアップに・・・

日経BP記事検索サービス

ビジネス、パソコン、医療など、日経BP社が発行する雑誌、約40誌の記事検索サービスです。

就職活動での企業分析や社会、経済動向の把握に有効なほか、パソコンスキルアップ講座でExcelやWordの基本操作からプレゼンのテクニックなど、段階的に学習することができます。



以上のデータベースは、大学が機関契約しているものですので、特に記述がない限り学内でのみ利用することができます。

OUNETでのパソコン使用後は、次の利用者のために必ずログアウト(オフ)しましょう。

総務課

暁天講座の開講

今年度の暁天講座を次のとおり開講いたします。

- 7月24日(火) 佐賀枝 夏文 本学教授
「こころの取扱い説明書」
7月25日(水) 尾畑 文正 同朋大学教授
「世のいのりにこころいれて」
7月26日(木) 安富 信哉 本学教授
「無縁の大悲」

- * いずれも講堂において、午前6時30分から開講します。
- * 終了後、学内食堂において、朝粥を用意しております。

安居の開講

真宗大谷派の今年度の安居が、本学において次のとおり開講されます。

期間 7月17日(火)～7月31日(火)
場所 大谷大学

なお、開講式(7月17日)と満講式(7月31日)は、真宗本廟阿弥陀堂において行われます。

講本・講者

[本講] 『顕浄土真実信文類』

副講 安富 信哉

[次講] 『浄土論註』

擬講 尾畑 文正

* 安居(あんご)とは、梵語(ぼんご) varṣaまたはvārṣikaの訳語で「雨期」の意。古来インドでは、夏の雨期になると遊行(ゆぎょう・僧が諸国をめぐるって説法、教化すること)が難しく、また、草や虫を踏み殺してしまう恐れがあるところから、精舎と呼ばれる窟院に住して修行した故事による、と言われていています。僧侶が雨期などある一定期間外出しないで一定場所に居住し、学習することをいいます。

教務部

前期定期試験について

- 今年度の前期定期試験は、7月23日(月)より8月1日(水)までの期間に実施します。
- 試験方法・時間割等詳細は、7月9日(月)に掲示します。
- 教務部提出のレポート受付は次のとおりです。
受付日時 7月27日(金)・30日(月) 10:00～18:30 (時間厳守)
(18:30を過ぎたものは一切受け付けません。注意してください。)
受付会場 文学部・大学院 J103教室
短期大学部 J102教室

真宗大谷派教師前期修練について

文学部第3学年主対象の前期修練は次のとおり行われます。受講予定者は掲示板で受講班を確認してください。

第1班

8月5日(日)～8月11日(土)

第2班

8月19日(日)～8月25日(土)

第3班

8月30日(木)～9月5日(水)

第4班

9月6日(木)～9月12日(水)

第5班

9月13日(木)～9月19日(水)

前期追試験について

病気等の理由で前期定期試験を受験できなかった場合には、教務部へ出願し許可されれば、次のとおり追試験を受験することができます。(許可理由等の詳細は『履修要項』で確認してください。)

①出願期間

当該科目試験日から1週間以内。ただし、7月30日(月)～8月1日(水)の試験については8月6日(月)が出願の締切りになります。

②追試験要項および時間割発表

8月20日(月)

③追試験日

8月23日(木)・24日(金)

集中講義期間について

今年度の集中講義期間は次のとおりです。各科目の日程については時間割表や掲示等で確認のうえ、受講してください。

集中講義期間

9月3日(月)～9月14日(金)

なお、教室については掲示でお知らせします。

後期の日程について

9月21日(金)より後期授業が始まります。また、この日に前期成績の「履修単位通知書」を配付しますので、学生証を持参のうえ、講堂棟1階ホワイエにて受領してください。

9月26日(水)～9月28日(金)は登録修正期間です。前期評価の結果、登録の修正が必要な場合はこの期間中に手続きをしてください。登録修正をした人は、10月8日(月)～10月10日(水)に「聴講登録確認票」を配付しますので、必ず教務部にて受領のうえ、確認をしてください。また、『学生向け情報提供システム』【聴講登録確認】への反映は、10月5日(金)の予定です。修正の可否、追加募集科目等の詳細は7月中旬に掲示および『学生向け情報提供システム』にてお知らせします。

なお、9月24日(月)、10月8日(金)、11月23日(金)は振替休日、祝日ですが、通常どおり授業が実施されます。

卒業研究の提出について

◎卒業研究提出・題目変更締切日について

明年3月、短期大学部卒業見込み学生は、右記の一覧表で卒業研究提出締切日等を確認のうえ、期日を厳守してください。

なお、題目を変更する場合は、所定の「題目変更届」を教務部窓口で受取り、指導教員の承認印を得たうえで、右記の題目変更締切日までに教務部へ提出してください。

◎提出場所について

教務部窓口へ提出してください。

なお、締切最終日のみ右記の会場へ提出してください。

— 提出締切日時について —

種 別	題目変更締切日	論文提出締切日時
卒業研究 (仏教科・文化学科)	10月24日(水)	10月31日(水)16:00
卒業研究 (幼児教育保育科・幼児教育科)	11月23日(金)	11月30日(金)16:00

— 提出最終日の会場について —

種 別	最 終 日	会 場
卒業研究 (仏教科・文化学科)	10月31日(水)	至誠館2階会議室
卒業研究 (幼児教育保育科・幼児教育科)	11月30日(金)	至誠館2階会議室

(注意事項)

■論文等の提出方法や様式については、『履修要項』・『卒業研究作成の手引』で確認してください。

■ワープロ使用や縦書・横書等の様式については、学科等により制限事項が異なりますので、事前に指導教員と相談してください。

なお、ワープロを使用する場合で、所定の書式以外で提出する場合は、題目変更締切日までに「ワ

ープロ書式所定外作成届」を提出してください。

■提出最終日の締切時間「16:00」とは、題目確認・ページ数の記入・目次の作成・見返し等をすべて整え製本した状態で提出する最終時間のことです。16:00の段階で、この要件を満たしていない卒業研究は受理できませんので注意してください。

2007年度 大谷大学教育後援会 文芸奨励賞 応募作品 大募集!

この文芸奨励賞は、在学生を対象に文芸作品を募集し、言葉による表現意欲を奨励することを目的に、大谷大学教育後援会によって創設された賞です。

今年度も次のとおり応募作品を募集しています。

【募集要項】

- テーマ 「いま伝えたいこと」
あなたは、いま何に打ち込んでいますか。何を悩んでいますか。何を考えていますか。
50字以内で自由に表現して、伝えてください。文の形式は自由です。
- 応募作品 ・作品は50字以内。
・オリジナル作品で未発表のもの、一人1作品に限ります（同人誌発表作品も不可）。
・応募作品は返却しません。
- 応募資格 大谷大学、大谷大学短期大学部及び大谷大学大学院の在学生。
- 応募期間 2007年6月25日（月）～9月21日（金）（但し、事務休止日を除く）
- 応募方法 ・大学指定の論文用紙またはA4版用紙で提出してください（縦書き・横書き自由）。
・応募作品には、学生番号、学部（課程）、学科（専攻）、学年、氏名を必ず記入してください。
・学生支援部学生課窓口に備え付けの応募BOXへ直接提出してください。
提出時間 9:00～13:00、14:00～17:00（但し、事務休止日を除く）
- 入賞者発表・表彰
発表 2007年10月15日（月） 学生支援部学生課掲示板にて発表
表彰 2007年10月26日（金） 宗祖御命日勤行にて表彰
最優秀賞：1名以内（文芸奨励金 50,000円）
優秀賞：2名以内（文芸奨励金 30,000円）
佳作：10名以内（文芸奨励金 10,000円）
※入賞作品は、「大谷大学広報07—冬号」「大谷大学ホームページ」に全文掲載。
- 審査員 大谷大学教育後援会会長、大谷大学学生部長及び大谷大学教育職員から3名
- その他 ・審査についての問い合わせには一切応じません。
・応募作品に伴う個人情報、賞の発表及び事務連絡以外には使用しません。
・入賞作品の著作権は、本学に帰属します。

試験時の学生証の携帯について

7月23日(月)より8月1日(水)まで、前期定期試験が実施されます。事前に『履修要項』の受験注意事項を熟読しておいてください。なお、定期試験は学生証を携帯していないと受験できません。

万一、学生証を忘れた場合は、試験開始前に、学生課で仮学生証（発行当日のみ有効）の発行手続きをしてください。発行に際しては、手数料500円が必要です。

定期試験不正行為は厳禁!!

定期試験において、不正行為が発見された場合は、その試験期間の受験資格を失い、単位は与えられないなどの処罰を受けることがあります。試験には厳正な態度で臨んでください。

休暇中のアルバイトについて

夏期休暇を利用してアルバイトをする場合は、安全で確実なものを選ぶことが大切です。賃金の高

さにつられて、危険なアルバイトをしないように注意してください。

アルバイトには、業務上の事故や、労働条件をめぐるトラブルが発生することがあります。信

頼できる安全なアルバイトを選択するように心がけてください。

学生課では、アルバイトについての相談も行っています。困ったことがあった場合には学生課に相

談してください。

なお、アルバイト紹介方法については、インターネットを利用してホームページ上より「アルバイト情報ネットワーク」の求人情報を

24時間365日閲覧することができます。詳しくは、本学ホームページの「大学案内」→「学生生活」→「アルバイト紹介」で確認してください。

海外渡航についての注意

海外へ渡航する場合には、「学生渡航届」の提出が必要です。指導教員の了承を得たうえで必ず学生課へ提出してください。

近年、海外では地震・台風等の自然災害や戦争・紛争等、不測の事態に巻き込まれる危険が増大しています。渡航にあたっては、以下のホームページにて、渡航先の治安状況、衛生状態等を調査し、情報をこまめにチェックした上で

慎重に計画を立ててください。

また、利用する旅行会社・航空会社について信頼できる会社であるか、緊急連絡体制は万全であるか等を確認し、自分自身を守るため海外旅行傷害保険に必ず加入してください。

海外渡航に関する情報は、GLOBAL SQUAREでも提供していますので利用してください。

厚生労働省検疫所ホームページ
(海外渡航者のための感染症情報)
<http://www.forth.go.jp/>
外務省海外安全ホームページ
<http://www.pubanzen.mofa.go.jp/>

帰国後、体調に変化がある場合は、保健所に相談後、大学へ連絡してください。
本学連絡先
075-411-8120 (保健室)

図書館

夏期休暇中の図書館の館外貸出について

- 通常の貸出手続きによって借りている図書は、すべて返却した後、夏期休暇中館外貸出の手続きを取ってください。
- 手続きには**利用者カード(学生証・職員証あるいは利用証)**を必ず携帯してください。

■貸出冊数(通常貸出冊数と同じ)

科目等履修生・聴講生	5冊
文学部・短期大学部学生	10冊
大学院学生	
非常勤講師・研修員	
元教育職員・事務職員	20冊
教育職員・事務職員	

■手続期間

7月20日(金)～

■返却日

9月25日(火)まで

夏期休暇中の図書館開館日時について

夏期休暇中(8月2日(木)～9月20日(木))は、短縮開館となります。但し、土・日・祝日、大学事務休止日(8月9日～17日)は休館します。

9月21日(金)より平常通り開館します。

*詳細、変更(臨時休館)は掲示・ホームページにてお知らせします。

財 務 課

2007年度 後期学生納付金の納入について

後期学生納付金の納入期限は10月1日(月)〈銀行受付日付有効・納入期日厳守〉です。

納入期限までに納入のない場合は、学則により除籍となりますので注意してください。振込依頼書は、保証人宛に8月31日に大学より発送します。

9月7日頃になっても振込依頼書が届かない場合、紛失、破損した場合には再発行いたしますので、財務課まで申し出てください。

事情により期限内納入が困難と予測される場合には、学生課にて学費延納の手続きを10月1日(月)までに行ってください。学費延納の

手続きには、「学費延納許可願(所定用紙)」および学費負担者の所得証明書(納税証明書・源泉徴収票等)が必要です。

2008年度前期学生納付金の納入期限は4月21日(月)です。前期学生納付金の振込依頼書については、3月31日に大学より発送します。

2007年度 後期学生納付金一覧

文学部

(単位 円)

		授業料	施設費	大谷学生会費	学生会費	教育後援会費	同窓会入会金	同窓会終身会費	合計額
第1～3学年	真宗・仏教・哲・社会・史・文・国際文化学科	397,500	100,000	1,000	2,500	15,000			516,000
	人文情報学科	397,500	175,000	1,000	2,500	15,000			591,000
第4学年	今年度進級学生	397,500	100,000	1,000	2,500	15,000	5,000	30,000	551,000
	// 人文情報学科	397,500	175,000	1,000	2,500	15,000	5,000	30,000	626,000
	同窓会入会金・終身会費納入済学生	397,500	100,000	1,000	2,500	15,000			516,000
	// 人文情報学科	397,500	175,000	1,000	2,500	15,000			591,000

社会科学部臨床心理学分野第2学年の学生は授業実習費20,000円が別途必要です。

短期大学部

(単位 円)

		授業料	施設費	大谷学生会費	学生会費	教育後援会費	同窓会入会金	同窓会終身会費	合計額
第1学年	仏教・文化学科	397,500	100,000	1,000	2,500	15,000			516,000
	幼児教育保育科	397,500	110,000	1,000	2,500	15,000			526,000
第2学年 仏教科・文化学科	今年度進級学生	397,500	100,000	1,000	2,500	15,000	5,000	30,000	551,000
	同窓会入会金・終身会費納入済学生	397,500	100,000	1,000	2,500	15,000			516,000
第2学年 幼児教育保育科・ 幼児教育科	今年度進級学生	397,500	110,000	1,000	2,500	15,000	5,000	30,000	561,000
	同窓会入会金・終身会費納入済学生	397,500	110,000	1,000	2,500	15,000			526,000

大学院

(単位 円)

		授業料	施設費	大谷学生会費	学生会費	教育後援会費	同窓会入会金	同窓会終身会費	合計額
修士第1学年・博士第1・第2学年 (2006年度以降入学生)		240,000	100,000	1,000		15,000			356,000
修士第2学年・ 博士第3学年	今年度進級学生 (2006年度以降入学生)	240,000	100,000	1,000		15,000	5,000	30,000	391,000
	同窓会入会金・終身会費 納入済学生 (2006年度以降入学生)	240,000	100,000	1,000		15,000			356,000
	今年度進級学生 (2005年度以前入学生)	240,000	60,000	1,000		15,000	5,000	30,000	351,000
	同窓会入会金・終身会費 納入済学生 (2005年度以前入学生)	240,000	60,000	1,000		15,000			316,000

同窓会入会金・終身会費については、本学短期大学部・文学部を卒業、修士課程を修了時など過去に納入されていれば不要です。

進路就職センター

進路就職センターでは、自分の将来や就職について考えるための情報提供や、支援プログラムの実施、相談などを通して皆さんが納得できる進路を決定していけるようサポートしています。相談、質問があれば、学年を問わず進路就職センターに来てください。

また、進路就職センターでは、以下のガイダンス・講習などを予定しています。詳細は、進路就職センターから発送されるDMや掲示、「学生向け情報提供システム」などで確認してください。

■文学部 就職ガイダンス（就職活動のスケジュール・取り組みについて）

対象：文学部第3学年

日時：2007年7月11日(水) 17：50～

会場：講堂

■短期大学部 進路・就職ガイダンス（進路・就職活動のスケジュール・取り組みについて）

対象：短期大学部第1学年 仏教科・文化学科

日時：2007年7月18日(水) 17：50～

会場：2301教室

■就職ガイダンス（就職活動基礎編 ～自己分析研究等～）

対象：文学部第3学年・短期大学部第1学年・修士課程第1学年・博士後期課程第2学年対象

日 時		会 場	指定学科
7月19日(木)	12：50～14：20	1113教室	真・社・文
	16：10～17：40		仏・哲・人文
7月20日(金)	12：50～14：20	1113教室	史・国際・修・博
	16：10～17：40		短仏・短文化・短幼

※指定された日に出席できない場合は、別の日時に出席してください。

※適性検査の結果を持参し、出席してください。

■適性検査フォローアップガイダンス

対象：文学部第2学年

日 時		会 場	指定学科
7月19日(木)	14：30～16：00	1214教室	真・史・文・国際
7月20日(金)	14：30～16：00	1113教室	仏・哲・社・人文

※指定された日に出席できない場合は、もう一方の日に出席してください。

※適性検査の結果を持参し、出席してください。

■筆記試験対策講座＜SP I・時事・論作文＞（有料・定員有・申込制）

対象：文学部第3学年・短期大学部第1学年・修士課程第1学年・博士後期課程第2学年

日程：2007年9月10日(月)～9月14日(金) 12：50～16：00

会場：1214教室

申込期間：2007年7月9日(月)～8月1日(水)

* 7月9日は12：30から受付開始（7月10日以降、受付開始時間は9：00～）

■就職ガイダンス（業界・職種・企業研究編）

対象：文学部第3学年・短期大学部第1学年（仏教科・文化学科）・修士課程第1学年・

博士後期課程第2学年

日時：2007年9月26日(水) 17:50～

会場：講堂

■エントリーシート対策模試<エントリーシートでの自己PR対策> (無料・申込不要)

対象：文学部第3学年・短期大学部第1学年・修士課程第1学年・博士後期課程第2学年

日程(予定)：2007年10月4日(木)・10月5日(金)

時間・会場：後日発表

*授業や実習などで、指定時間に受験できない学生は、自宅受験も可能です。

教職支援センター

教職支援センターでは、後期に次の講習やガイダンスなどを予定しています。申込期間や日程などの詳細は、掲示および学生向け提供システムなどで確認してください。

●教員受験特別講習 (10月開講予定)

<教職教養> 教員に求められる「教育観」の育成をめざし、教育法規や学習指導要領、生徒指導や特別活動などを学びます。

<専門教養> 英語科・国語科・社会科を教科別に開講し、基礎的事項を整理し、問題を解きながら専門性と実践力を身につけます。

●教員希望者ガイダンス (10月開催予定)

本学卒業の現任教員を講師に招き、教員採用試験に向けての取り組み方や、教育現場の現状と教員になるにあたっての心構えなどを聞くことができます。

昨年度の出席した学生からは「身近な先輩の話聞くことができ、やる気がでました」や「悩んでいた時期でしたが、この講演を聞いてやる気がでました」など前向きな感想が寄せられました。教員をめざす学生はぜひ出席してください。

●教員採用試験説明会 (12月開催予定)

公立学校・私立学校の募集および採用状況、採用試験に向けての取り組み方などについて説明します。教育委員会からも出席していただき、今年度の内容や結果についても説明をしていただく予定です。

教員になるには、どうすればいいの? ③

教職アドバイザー 長谷川 浩三

教員採用試験を受けるためには、受験資格を満たしている必要があります。受験する校種・教科の免許を取得することが、教員になるための第一歩です。

教員免許の種類には

①普通免許状 ②特別免許状 ③臨時免許状 の3種類があり、普通免許状には、さらに大学院修士課程修了を要件とする専修免許状、大学学部卒業を要件とする一種免許状、短大卒業で得られる二種免許状があります。②③の免許

状は、年限や有効地域が限定されたもので、通常の採用試験においては、普通免許状の取得(または取得見込み)を要件とします。小学校教員資格認定試験を活用して、小学校教員の免許を取得する方法もあります。

受験対策はどうするか

試験範囲は限りなく広いので、勉強をいくら続けても達成感はいくくいでしょう。しかし、出題予測をもとにある程度絞り込むことは可能です。学習を系統的にそし

て時間を上手に配分して、効率的に進めることが肝要です。そのためには、自分に合った問題集や参考書を探し出し、それを徹底的に使い込むことが大切です。受験生の仲間を作ったり、本学の特別講習、セミナーなどを活用したりすることも有効な学習と言えます。

また、面接や指導法、論作文などを重視している自治体を受験する場合は、面接指導や指導案づくり、論作文指導を受けておくことを勧めます。

GLOBAL SQUARE

GLOBAL SQUAREでは、今年もいろいろなイベントを企画しています！留学を考える人、留学生と交流をしたい人、異文化にふれてみたい人など、ぜひGLOBAL SQUAREを活用してください。

GLOBAL SQUAREの各種イベント情報の詳細はホームページやGLOBAL SQUARE掲示板で確認できます。
URL： <http://web.otani.ac.jp/gs/>

■GLOBAL SQUARE学生スタッフ募集

GLOBAL SQUAREのイベント企画・実施や留学生のサポートなどをするGLOBAL SQUARE学生スタッフを募集しています。国際交流や留学生との交流に興味のある人は、ぜひ参加してください。

申込期間：2007年6月18日(月)～7月20日(金)

■展示企画「世界のVacation☆」

留学生や研修員、教員に母国の休暇の過ごし方について聞いてみました。お勧め観光スポットも紹介しています。

展示期間：2007年7月2日(月)～9月28日(金)

場 所：GLOBAL SQUARE

■コーヒーアワー

コーヒーアワーはお茶を飲みながら楽しく留学生と交流できる時間です。今回の交流テーマは、展示企画にあわせて「世界のVacation☆」です。

日 時：2007年7月18日(水) 16：10～

場 所：GLOBAL SQUARE

テーマ：世界のVacation☆

■シネマ上映会

GLOBAL SQUAREスタッフお勧めの映画を簡単な解説を交えながら上映します。

日 時：2007年7月11日(水) 16：10～

場 所：GLOBAL SQUARE

映 画：「グッバイ・レーニン！」(ドイツ映画)

解 説：廣川智貴講師

定 員：30名

■留学出発前オリエンテーション

2007年度後期の留学予定者を対象に留学出発前オリエンテーションを開催します。長期間、外国での生活を始める準備と対策を十分に、実りのある留学を実現させましょう。

日 時：2007年7月下旬(詳細はホームページ、GLOBAL SQUARE掲示板で確認してください。)

場 所：GLOBAL SQUARE

内 容：◎入国の際の注意点 ◎留学先到着後の手続き ◎留学中の安全対策 ◎帰国後の手続き

■夏期休暇中の開室について

8月2日(木)～8月5日(日)

開室時間：10：00～17：30

※4日(土)・5日(日)はオープンキャンパスのため開室

8月6日(月)～9月20日(木)

開 室 日：月曜日～金曜日

開室時間：12：30～17：30

※8月9日(木)～17日(金)は閉室



前回の展示企画の様子

***** 各種イベントの参加申込はGLOBAL SQUAREまで! *****

「ハラスメント防止のためのガイドライン」制定について

大谷大学人権委員会委員長 草野 顕之

本学では、2001年4月1日に、現行の「セクシュアル・ハラスメント防止のためのガイドライン」を作成し、セクシュアル・ハラスメントの防止に努めてまいりました。しかしながら、近年アカデミック・ハラスメントやパワー・ハラスメントが社会問題となってきており、本学においても、人権委員会を中心に従来のガイドラインを改訂し、新たに以下の通り「ハラスメント防止のためのガイドライン」を作成いたしました。

本学構成員の全ての方は、このガイドラインを十分にご認識いただき、あらゆるハラスメントの防止にご協力いただくとともに、教育・研究に相応しいキャンパス環境の保持にご協力いただきますようお願い申し上げます。



2007年4月1日

ハラスメント防止のためのガイドライン

大谷大学人権委員会

1. 目的

このガイドラインは、大谷大学（大谷大学短期大学部及び大谷大学大学院を含む。以下「本学」という。）の構成員が相互に人権を尊重し、就労や、教育及び研究の場としてふさわしい良好な環境を維持するため、学内における多様なハラスメントの防止とその対応策について必要な事項を定めることを目的とする。

2. 基本方針

ハラスメントは、個人の尊厳を損ない人権を侵害する行為である。本学は、本学の建学の精神及び日本国憲法、教育基本法、男女雇用機会均等法、女性差別撤廃条約等、人権に関する法令の精神に則り、ハラスメントの防止に努めるとともに、ハラスメントが発生した場合に適正な対応と諸施策を講じる責務を負う。

すべての本学構成員は、このガイドラインの目的を理解し、ハラスメントの防止とその解決に努めなければならない。

3. 対象と適用範囲

このガイドラインの対象となる者は、本学の構成員のすべてである。本学の構成員とは、学生（科目等履修生・聴講生・外国人留学研究員・研修員・公開講座の受講生等、本学で教育を受けるすべての者を含む。）、及びすべての職員（契約職員・兼任職員・アルバイト職員等、本学で就労するあらゆる形態の者を含む。）をいう。

このガイドラインは、ハラスメントが本学構成員相互間において問題となる場合、それが発生した場所・時間帯を問わず適用される。

さらには、実質的に本学の就労や、教育及び研究上の環境に重大な支障を与えると認められるハラスメントについては、被害者または加害者が本学の職員、学生等であれば、キャンパスの内外を問わず、本ガイドラインが広く適用ないし準用される。

なお、職員については離職後、学生等については卒業・退学等で本学の学籍を失った後においても、在職中又は在学中に受けたハラスメントに関する相談・申し立てを行うことができる。また、加害者とされる者が既に離職又は学籍を喪失している場合でも、その者が在職中又は在学中に行ったことであれば相談・申し立てを行うことができる。

ただし、キャンパス内の出入り業者、他大学学生等本学の構成員でない者については、本ガイドラインの趣旨、目的、概念を説明し、その者が所属する機関に対して、予防、再発防止、行為者の処分等を行うよう求めるものとする。

4. ハラスメントとは

ハラスメントとは、性別、社会的身分、人種、国籍、信条、年齢、職業、身体的特徴等の属性あるいは広く人格にかかわる事項等に関する言動によって、相手に不利益や不快感を与え、あるいはその尊厳を損なうことをいう。

大学におけるハラスメントとしては、優越的地位や指導上の地位、職務上の地位、継続的關係を利用して、相手の意に反して行われ、就労や、教育及び研究上の環境を悪化させる行為が挙げられる。意識的であるか無意識的であるかは問わず、また肉体的暴力だけでなく精神的暴力も含まれる。

これらのハラスメントには、セクシュアル・ハラスメント、アカデミック・ハラスメント、パワー・ハラスメント等がある。

なお、これらの定義は厳格に解されるべきものではなく、さまざまな状況により柔軟に適用される。

(1) セクシュアル・ハラスメント

セクシュアル・ハラスメントとは、就労や、教育及び研究上の人間関係において、相手の意に反する性的な言動によって、就労や、教育及び研究上の不利益や利益を与え、またそれらの環境を悪化させることをいう。

性的な言動とは、性的な関心や欲求に基づく言動をいい、性的な文書や図画の掲示、性別により固定的な役割を分担すべきであるとする意識に基づく言動も含む。



不利益や利益とは、性的な欲求への服従又は拒否を理由に、進学、進級、成績評価及び教育・研究上の指導等を受ける際の取り扱いにおける不利益や利益、また、昇任、配置換え等の任用上の取り扱いや、昇格、昇給、諸手当等の給与上の取り扱いに関する不利益や利益、また、誹謗中傷を受けること、その他事実上の不利益や利益をいう。

環境の悪化とは、セクシュアル・ハラスメントによって、就労や、教育及び研究に専念し難い程度に環境が不快なものになることをいう。

また、セクシュアル・ハラスメントであるかどうかの判断は、行為者の意図にかかわらず、その行為が相手の意に反したものであるかどうかによる。

また、セクシュアル・ハラスメントは、異性に対してのみならず、同性間においても起こり得る。

(2) アカデミック・ハラスメント

アカデミック・ハラスメントとは、教員等の権威的または優越的地位にある者が、意識的、無意識的に、その優位な立場や権限を利用または逸脱して、その指導等を受ける者の研究意欲及び研究環境を阻害する結果となる、教育上不適切な言動、指導または待遇を行うことを指す。

例えば、教員間であれば、より優位にある者による研究妨害や昇任差別、退職勧奨等、教員と学生の間であれば、指導教員からの退学・留年勧奨、指導拒否、指導上の差別行為、学位取得の妨害、就職上の指導差別、公平性を欠く成績評価等である。より具体的には、昇任審査、学位審査及び研究指導において、特定の者に対し、必要以上に厳しい条件を課すこと、指導を超えて人格を否定するような言動を繰り返すことなどである。

ただし、教育上の指導においては、指導のあり方は多様であり、また指導を受ける側の個々人の感じ方等の差異もあり、アカデミック・ハラスメントであるか否かの判断については十分注意しなければならない。

(3) パワー・ハラスメント

パワー・ハラスメントとは、就学上、就労上の優越的地位を利用して、自分よりも下位のものに対し、その影響力を濫用する言動のことである。また、指導の範疇を超える言動により、人格と尊厳を侵害し不安を与え、それにより、就労や、教育及び研究上の環境を悪化させることである。これらは、必ずしも、先輩から後輩、上司から部下への加害行為に限られるわけではない。

上述した3種のハラスメントは境界線が不分明であるが、明確な人権侵害であるということをしかりと受け止めなければならない。

5. ハラスメント防止についての本学の役割

(1) ハラスメント防止のために学習会等の啓発活動を行う。

(2) 人権教育・研究・啓発を推進するために、また教育、研究の場にふさわしい環境づくりを推進するために、人権センターを置く。

(3) 被害を受けた学生および職員等が、安心してハラスメントの被害の相談・申し立て等ができるよう、人権センター、学生相談室、及び保健室に、人権問題相談窓口を設置し、相談員を置く。相談窓口では、ハラスメントに関する相談をはじめ、その他人権問題全般に関する相談に応じる。いずれの場合においても秘密が厳守されるよう、十分に注意する。

(4) 本学は、ハラスメントをはじめ、その他の人権侵害等に関する問題が生じた場合には、相談者の意思を尊重した上で、人権問題調査委員会を設置し、処分を含む早急且つ適切な対応を行う。加害者が学外者である場合にあっては、必要かつ適切な措置をとるよう努力する。

その際、関係者（当事者の他、監督・指導の責任を負う者等、利害関係を有する者を含む）のプライバシーの尊重と秘密厳守には特に留意する。

6. ハラスメントに関する注意

(1) ハラスメントをおこさないために

① 本学構成員は、ハラスメントのない、就労や、教育及び研究上の好ましい環境を維持するために、日頃から注意することが必要である。

また、学外や職務時間外におけるハラスメントにも注意しなければならない。さらに、本学構成員間のみではなく、関係を有する学外者との関係におけるハラスメントにも注意を要する。

② 教育職員と学生との関係において、教育職員は成績評価、単位認定等にかかわる権限を有している。したがって、そのことがハラスメントの基盤や背景となりうることを、十分に認識していなくてはならない。

③ ハラスメントを起こさないためには、お互いの人格を尊重することが最も重要である。

就労や、教育及び研究における人間関係において、相手を性的な関心の対象として見る意識をなくすること、また優位な立場にあることからくる慢心や相手に対する軽視を捨てることが大切である。また、異性を劣った性として見る意識をなくすることも重要である。

④ ハラスメントであるかどうかは、言動を為した者よりもそれを受ける側の感じ方や判断がより尊重される。このことは、ことにセクシュアル・ハラスメントにおいて顕著にあらわれる。したがって、親しさを表すつもりと言動が相手を不快に



させる場合があること、したがって、これくらいなら許容されるであろうと勝手に憶測しないことが大切である。

また、何らかの誘いに対して拒否の意思表示がないからといって、それを同意や合意であると勘違いしてはならない。

(2) ハラスメントを受けたと感じたら

- ① ハラスメントを自分一人で解決することは、きわめて困難である場合が多い。そのため、一人で悩まず、人権問題相談窓口にご相談することが望ましい。
- ② ハラスメントを受けたと感じた場合は、相手に対して明確に拒否の意思表示をすることが望まれる。明確な意思表示ができない場合は、その日時、場所、状況等について記録(メモ)を取り、信頼できる人があれば話しておくことが大切である。また、自らがどのように対応したかも記録(メモ)しておく。相談・申し立てに当たっては、ハラスメントに関する証拠のようなものは必ずしも必要とはされないが、記録しておくことは、相談・申し立て後の調査を円滑に進め易くするためには有用である。
- ③ 相談・申し立てについては、人権センター、学生相談室、保健室等、いずれの相談窓口でも受け付ける。最も相談しやすいところに相談に行くようにする。また、一人で相談に行き難いときには、親しい友人等の付添人(学外者を含む)の同伴も認められる。相談窓口での相談・申し立ては、被害を受けたとされる者の立場を尊重して行われる。
- ④ 相談・申し立てについては、被害者とされる者だけでなく、被害者とされる者の代理人、被害を目撃した第三者からも受け付ける。ハラスメントの場面を見聞した場合や、被害者から相談を受けた場合は、できるだけ被害者の力になり、相談窓口に行くように勧めることが望まれる。
- ⑤ 相談・申し立てについては、面談だけでなく、手紙・電話・ファックス・電子メールでも受け付ける。これらのうちで、もっとも利用しやすい方法を用いればよい。相談窓口への連絡方法は、学生手帳、パンフレット等に記載されている。

7. その他の注意事項

- ① 相談や救済のための申し立てを行った者や事実調査に協力した者、その他手続きにかかわった者が報復をされたり、なんらかの不利益を被ったりすることがあってはならない。
ハラスメントの相談・申し立てをしたことに対して、申し立てられた側が報復することを厳しく禁じる。もし、報復行為がなされた場合には、大学として、ただちに必要な措置をとる。また、申し立てられた者以外の者が、申し立てをした者に、何らかの差別的・不利益的な取り扱いや、いやがらせなどをしたときも同様に対処する。
- ② 虚偽であることを知りながら、嘘の相談や申し立てをしてはならない。また、虚偽の証言や十分な根拠がないのに、無理に真実である旨の証言をしてはならない。ただし、実際に経験したことについて、証拠を示して証明することが出来ないからといって「根拠がない」と取り扱われるわけではない。

【参考】 ハラスメントの事例

1. セクシュアル・ハラスメントになり得る言動の例

(1) 教室・研究室・職場の内外で起きやすいもの

A. 性的な内容の発言等

a. 性的な関心、欲求に基づくもの

- ・スリーサイズを聞く等、身体的特徴を話題にする
- ・卑猥な冗談を交わす
- ・体調が悪そうな女性に「今日は生理日か」、「もう更年期か」等と言う
- ・「彼とはどんな関係か」等と、性的経験や性生活について質問する
- ・「結婚しているのか」、「離婚したのか」等としつこく聞く
- ・性的なうわさを流したり、性的なからかいの対象とする
- ・授業内容と関係のない性的な話題を授業中に持ち出す

b. 性別により差別しようとする意識に基づくもの

- ・「男のくせに根性がない」、「女には仕事を任せられない」、「女性は職場の花でありさえすればよい」、「女は学問などしなくてもよい」等と発言する
- ・成人に対して、「男の子」、「女の子」、「僕、坊や、お嬢さん」、「おじさん、おばさん」等と人格を認めないような呼び方をする

B. 性的な行動等

a. 性的な関心、欲求に基づくもの

- ・ヌードポスター等を研究室や職場に貼る
- ・雑誌等の卑猥な写真・記事等をわざと見せたり、読んだりする
- ・職場のパソコンのディスプレイに卑猥な画像を表示する
- ・身体を執拗に眺め回す
- ・食事やデートにしつこく誘う



- ・性的な内容の電話をかけたり、性的な内容の手紙、Eメールを送りつける
 - ・身体に不必要に接触する
 - ・不必要な個人指導を行う
 - ・浴室やトイレ、更衣室等をのぞき見する
 - b. 性別により差別しようとする意識等に基づくもの
 - ・女性であるというだけでお茶くみ、掃除、私用等を強要する
 - ・女性であるというだけの理由で、仕事や研究上の実績等を不当に高く又は低く評価する
 - ・男性であるというだけの理由で、仕事や研究上の実績等を不当に高く又は低く評価する
- (2) 主に教室・研究室・職場の外において起きやすいもの
- a. 性的な関心、欲求に基づくもの
 - ・性的な関係を強要する
 - ・ゼミやクラス、クラブ、サークル、職場等の旅行の宴会の際に浴衣に着替えることを強要する
 - ・出張への同行を強要したり、出張先で不必要に自室に呼ぶ
 - ・自宅までの送迎を強要する
 - ・住居等まで付け回す
 - b. 性別により差別しようとする意識等に基づくもの
 - ・カラオケでのデュエットを強要する
 - ・酒席で、指導教員、上司等のそばに座席を指定したり、お酌やチークダンス等を強要する

2. アカデミック・ハラスメントになり得る言動の例

(1) 教育指導を妨害するもの

- ・卒業研究を開始して間もないのに、早々に留年を言いわたす
- ・正当な理由を示さずに、単位を与えない
- ・卒業・修了の判定基準を恣意的に変更して留年させる
- ・正当な理由なく、本人の希望に反する学習・研究活動や研究テーマを押しつける
- ・就職活動を禁止する
- ・正当な理由なく、就職や他大学進学に必要な推薦書を書かない
- ・正当な理由なく、他の研究教育組織への異動を強要する
- ・「放任主義だ」と言って、研究指導やアドバイスをしない
- ・論文原稿を渡されてから、正当な理由なく、何週間経っても添削指導をしない
- ・嫌いなタイプ、意見の合わない学生に対して、指導を拒否したり差別待遇をしたりする
- ・教育・研究において、「幼稚なお前には指導の必要がある」等と言い、精神的虐待を行う

(2) 研究活動を妨害するもの

- ・正当な理由なく、文献・図書や機械類を使わせない
- ・正当な理由なく、実験機器や試薬等を勝手に廃棄する
- ・研究に必要な物品購入を、必要な書類に捺印しないという手段で妨害する
- ・正当な理由なく、机を与えない又は机を廊下に出したり、条件の悪い部屋や他の研究室員とは別の部屋に隔離したりする
- ・正当な理由なく、研究室への立ち入りを禁止する
- ・研究費の申請を妨害する
- ・正当な理由なく、学会へのお出張を許可しない
- ・正当な理由なく、研究出張を認めない等の手段で、共同研究を行わせない

3. パワー・ハラスメントになり得る言動の例

- ・職場・グループ内で孤立させる
- ・不当に本来の指導をこえる作業・業務をさせたり休日に出てくることを強要したりすることで、相手の健康を危険にさらす
- ・人格を否定したり傷つけたりするようなことばの暴力や実際に暴力をふるう
- ・相手の信用を傷つける
- ・立場を利用して知識・技術・アイデアを搾取する
- ・不当に職務に無関係な資料整理、コピー、お茶くみ、掃除等雑務をさせる
- ・携帯電話のメールを勝手に見る

2007年度 同窓会支部巡回講演会開催一覧

毎年、7月から9月を中心に全国の同窓会各支部において、支部総会ならびに巡回講演会が開催されます。講演会では、本学教員や名誉教授が講師として派遣され、あわせて大学の現況などが報告されます。

また、巡回講演会は同窓生だけでなく、一般市民にも公開されている支部もあり、特に今年度は、福島県支部、上越支部、郡上支部において、新たに設立されたNPO法人 尋源舎との共催により「仏教公開セミナー」として開催されます。

支部名	開催日	講 師
函 館	7月27日(金)	幡谷 明 名誉教授
小 樽	7月25日(水)	幡谷 明 名誉教授
札幌・岩見沢・夕張	7月3日(火)	水島 見一 准教授
砂 川	7月4日(水)	水島 見一 准教授
北 の 国	7月2日(月)	水島 見一 准教授
室 蘭	7月26日(木)	幡谷 明 名誉教授
深 川	7月27日(金)	福島 光哉 名誉教授
旭 川	7月26日(木)	福島 光哉 名誉教授
十 勝	7月26日(木)	R.F.ローズ 教 授
網 走	7月27日(金)	R.F.ローズ 教 授
紋 別	7月28日(土)	R.F.ローズ 教 授
名 寄	7月25日(水)	福島 光哉 名誉教授
釧 根	7月25日(水)	R.F.ローズ 教 授
青 森	8月26日(日)	沙加戸 弘 教 授
岩 手	9月5日(水)	沙加戸 弘 教 授
宮 城	9月6日(木)	沙加戸 弘 教 授
秋 田	8月27日(月)	沙加戸 弘 教 授
山 形	9月5日(水)	若槻 俊秀 名誉教授
福 島 県	8月25日(土)	沙加戸 弘 教 授
茨 城	8月4日(土)	佐賀枝夏文 教 授
栃 木	8月2日(木)	佐賀枝夏文 教 授
群 馬	9月5日(水)	佐賀枝夏文 教 授
埼 玉	9月1日(土)	池上 哲司 教 授
千 葉	9月2日(日)	R.F.ローズ 教 授
東 京	8月3日(金)	佐賀枝夏文 教 授
神 奈 川	8月25日(土)	藤嶽 明信 教 授
山 梨	8月25日(土)	草野 顕之 教 授
信濃学友会	9月13日(木)	木村 宣彰 学 長
三 条	9月14日(金)	木村 宣彰 学 長
上 越	9月15日(土)	木村 宣彰 学 長
静 岡	9月10日(月)	石橋義秀教授・同窓会理事長
三 為 会	8月29日(水)	水島 見一 准教授
尾張学友会	9月7日(金)	水島 見一 准教授
三 重	9月13日(木)	石橋義秀教授・同窓会理事長
大 垣	9月1日(土)	兵藤 一夫 教 授
岐 阜	9月8日(土)	兵藤 一夫 教 授

支部名	開催日	講 師
郡 上	8月19日(日)	佐賀枝夏文 教 授
飛 騨	9月6日(木)	水島 見一 准教授
富 山	8月22日(水)	佐賀枝夏文 教 授
高 岡	8月23日(木)	佐賀枝夏文 教 授
金 沢	8月23日(木)	R.F.ローズ 教 授
能 登	8月22日(水)	R.F.ローズ 教 授
小 松	8月24日(金)	水島 見一 准教授
大 聖 寺	8月18日(土)	木越 康 准教授
福 井	9月10日(月)	木村 宣彰 学 長
長 浜	8月5日(日)	三木 彰円 講 師
湖 東	9月8日(土)	谷口奈青理 准教授
湖 南	8月25日(土)	藤本 芳則 教 授
湖 西	8月26日(日)	小川 一乗 名誉教授
丹 但	8月6日(月)	草野 顕之 教 授
大阪4支部合同	9月7日(金)	草野 顕之 教 授
神戸・阪神	8月18日(土)	兵藤 一夫 教 授
和 歌 山	8月26日(日)	佐賀枝夏文 教 授
奈 良	8月26日(日)	水島 見一 准教授
播 磨	9月7日(金)	木村 宣彰 学 長
鳥 取	9月9日(日)	加来 雄之 准教授
鳥 根	9月2日(日)	木村 宣彰 学 長
岡 山	9月1日(土)	木村 宣彰 学 長
福 山	9月1日(土)	延塚 知道 教 授
広 島	9月6日(木)	木村 宣彰 学 長
山 口	9月2日(日)	佐賀枝夏文 教 授
四 国	8月31日(金)	木村 宣彰 学 長
福 岡	8月27日(月)	延塚 知道 教 授
久 留 米	9月2日(日)	草野 顕之 教 授
佐 賀	9月1日(土)	草野 顕之 教 授
大 分	8月30日(木)	草野 顕之 教 授
北 九 州	8月31日(金)	中川皓三郎 教 授
長 崎	8月31日(金)	加来 雄之 准教授
熊 本	8月26日(日)	延塚 知道 教 授
宮 崎	8月29日(水)	加来 雄之 准教授
鹿 児 島	8月30日(木)	加来 雄之 准教授

2007年度 課外活動春季大会結果

【団体成績】

クラブ名	日程	対戦校	結果	会場
卓球部 (男子) 関西学生卓球連盟春季リーグ戦 Ⅲ部Aリーグ4位	4月29日(日)	甲南大学	●2-3	近畿大学記念会館 〃 京都府立体育館 〃 〃
	4月30日(月)	神戸大学	●1-3	
	5月4日(金)	天理大学	●0-3	
	5月5日(土)	滋賀大学	○3-0	
	5月6日(日)	神戸学院大学	○不戦勝	
卓球部 (女子) 関西学生卓球連盟春季リーグ戦 Ⅲ部Bリーグ5位	4月29日(日)	兵庫県立大学	●2-3	近畿大学記念会館 〃 京都府立体育館 〃 〃
	4月30日(月)	大阪大学	●2-3	
	5月4日(金)	天理大学	○不戦勝	
	5月5日(土)	神戸大学	●1-3	
	5月6日(日)	大阪市立大学	●2-3	
柔道部 (男子) 京都学生柔道連盟京都学生柔道大会 Ⅱ部3位	5月3日(木)	舞鶴工業高等専門学校	○3-2	京都産業大学 柔道場 〃 〃
	5月3日(木)	京都府立医科大学	●2-3	
	5月3日(木)	京都教育大学	○3-2	
硬式野球部 京滋大学野球連盟春季リーグ戦 Ⅰ部4位	3月31日(土)	京都学園大学	●6-9	西京極球場 〃 〃 花園大学 〃 〃 〃 〃 〃 〃 〃 〃
	4月1日(日)	〃	○2-0	
	4月2日(月)	〃	●1-7	
	4月14日(土)	花園大学	○6-0	
	4月15日(日)	〃	○5-0	
	4月22日(日)	佛教大学	○2-0	
	4月23日(月)	〃	●0-4	
	4月24日(火)	〃	●0-8	
	4月28日(土)	びわこ成蹊スポーツ大学	○1-0	
	4月29日(日)	〃	○3-2	
	5月9日(水)	京都創成大学	●1-2	
サッカー部 関西学生サッカー連盟春季リーグ Ⅲ部Aブロック4位	4月8日(日)	太成学院大学	○5-2	大谷大学湖西グラウンド 大阪国際大学グラウンド 京都外国語大学西山グラウンド 大谷大学湖西グラウンド 大阪市立大学グラウンド 大谷大学湖西グラウンド 大谷大学湖西グラウンド 大阪市立大学グラウンド 大谷大学湖西グラウンド
	4月14日(土)	大阪国際大学	●1-6	
	4月15日(日)	兵庫県立大学神戸	△0-0	
	4月22日(日)	京都外国語大学	○5-3	
	4月30日(月)	大阪芸術大学	○4-2	
	5月3日(木)	京都精華大学	○8-0	
	5月6日(日)	近畿福祉大学	○8-0	
	5月13日(日)	大阪市立大学	●0-10	
	剣道部 (男子) 西日本学生剣道選手権 2回戦敗退	5月26日(土)	岐阜聖徳学園大学	
5月27日(日)		佐賀大学	●0-5	
バスケットボール部 (男子) 関西学生バスケットボール選手権大会 予選ブロック敗退	4月22日(日)	大阪国際大学	●76-132	龍谷大学
西日本学生バスケットボール選手権大会 予選ブロック敗退	5月27日(日)	日本文理大学	●57-93	松下電器体育館
春季京都学生バスケットボール選手権大会 予選ブロック敗退	5月6日(日)	京都橘大学	○87-56	京都精華大学 龍谷大学
	5月12日(土)	京都教育大学	●66-99	
バスケットボール部 (女子) 関西女子学生バスケットボール選手権大会 3回戦敗退	4月15日(日)	追手門学院大学	○103-53	大阪大学 大谷大学 奈良文化女子短期大学
	4月21日(土)	神戸親和女子大学	○92-69	
	4月22日(日)	奈良文化女子短期大学	●59-76	
	5月29日(火)	福岡大学	●105-55	
ソフトテニス部 (男子) 関西学生ソフトテニス連盟春季リーグ V部Cブロック2位	4月28日(土)	兵庫県立大学西学舎	○4-1	兵庫教育大学 〃 〃
	〃	兵庫教育大学	○4-1	
	〃	帝塚山大学	●1-4	
ソフトテニス部 (女子) 関西学生ソフトテニス連盟春季リーグ VI部Aブロック3位	4月29日(日)	兵庫県立大学東学舎	●1-2	大谷大学 〃 〃
	〃	大阪電気通信大学	○3-0	
	〃	大阪大谷大学	●1-2	
バレーボール部 (男子) 関西大学バレーボール連盟春季リーグ戦 V部4位	4月22日(日)	花園大学	○3-0	大谷大学 〃 追手門学院大学 〃 大谷大学 〃 〃
	4月29日(日)	追手門学院大学	●1-3	
	4月30日(月)	京都教育大学	●0-3	
	5月6日(日)	兵庫教育大学	●1-3	
	5月13日(日)	関西外国語大学	●1-3	
	5月20日(日)	帝塚山大学	○3-0	
	5月27日(日)	大阪外国語大学	○3-0	
バドミントン部 (男子) 京都学生バドミントン連盟春季リーグ戦 Ⅲ部2位	4月8日(日)	京都薬科大学	○5-0	京都産業大学 京都産業大学 佛教大学 〃
	4月15日(日)	京都府立大学	○4-1	
	4月22日(日)	滋賀県立大学	○5-0	
	4月29日(日)	京都橘大学	○3-2	
	4月30日(月)	滋賀大学経済学部	●1-3	
関西学生バドミントン春季リーグ戦 VI部Dブロック2位	5月12日(土)	関西福祉科学大学	○3-2	大谷大学 京都府立大学 〃 大谷大学
	5月13日(日)	大阪電気通信大学	○5-0	
	5月13日(日)	兵庫県立大学	●2-3	
	5月19日(土)	京都府立大学	○4-1	
バドミントン部 (女子) 京都学生バドミントン連盟春季リーグ戦 Ⅰ部5位	4月8日(日)	龍谷大学	●0-5	京都産業大学 京都産業大学 京都産業大学 佛教大学 〃
	4月15日(日)	京都産業大学	●0-5	
	4月22日(日)	立命館大学	●0-5	
	4月29日(日)	佛教大学	●1-4	
	4月30日(月)	京都大学	○3-1	
関西学生バドミントン春季リーグ戦 Ⅲ部5位	5月5日(土)	大阪教育大学	●2-3	大谷大学 〃 〃 神戸大学 大谷大学 東淀川体育館
	5月5日(土)	びわこ成蹊スポーツ大学	○3-2	
	5月12日(土)	滋賀大学教育学部	○3-1	
	5月13日(日)	神戸大学	●2-3	
	5月19日(土)	関西学院大学	●1-4	
	5月31日(木)	京都大学	○3-1	

【個人成績】

●硬式野球部

<京滋大学野球連盟春季リーグ戦>
於 西京極球場他 (3月31日~)

最優秀投手賞

・坂本 英之
(文学部史学科 第4学年)

ベストナイン

・外野手 小林 憲児
(文学部史学科 第3学年)
・指名打者 谷川 慎吾
(文学部人文情報学科 第2学年)

打撃ベストテン

・第3位 小林 憲児
(文学部史学科 第3学年)
・第6位 谷川 慎吾
(文学部人文情報学科 第2学年)

●跆拳道部

<W.A.T.A OPEN テコンドー選手権大会>
於 堺市大浜体育館 (4月29日)

女子一般 初級ライト級

・準優勝 清水 麻友
(文学部哲学科 第2学年)

学問のしおり

その先生の講義は、仏教のテキスト（聖教）の一句一字を丁寧に読み解いていくものであった。にもかかわらず、その語りには、宗教の講義にありがちな教義の重苦しさがなかった。その先生の解釈を通すと、仏教の言葉が、私が今ここにあることと深いつながりがあったのだということを実感させられた。講義の姿勢に貫かれているのは「仏教は自覚だ」という明解なメッセージであった。ある種の鳥の雛は生れてはじめて見た動くものを親と認識して、それについていくようにプログラムされているという。私にとって「仏教の救いは自覚だ」というテーゼは、「刷り込み」に近いものになった。

聖教を正しく読むとはどういう営みなのだろうか。そんな初歩的とも思える問いに揺れる。聖教を読むとは文献として精確に解釈することではないだろう。もちろん文献としてきちんと読まずに理解することなどできるはずもないが、語義を調べ尽くしてもやはり一つの自分の解釈でしかない。

一つのテキストを読むということは、その書の内容の解釈を通して自己を理解することであり、それによってみずからの生の地平が深まり、その可能性が広がることであるといわれる。つまりテキストを読むということのかけがえのない意味は、単に知識を増やすことではなく、みずからの人生への関わり方が変わっていくことにある。本当に深いテキストは、何度読んでも、自分の思いを解体し、自分の生の意味を問い直し深めていく力を持っている。

ある哲学者が「ある種の問題は、深くいかなる仕方において存在そのもの（being-itself）のなかに根をおろしているかという問いを問うことなしに、解明も解決もされない」（P.ティリッヒ）と述べている。冒頭にあげた先生も、「宗教の問題は究竟的な意義において、人間存在そのもの問題として考えねばならない。…中略…人間が宗教の問題をもつ時、逆に自明であったところの人間そのものが問われてくる。そしてそれは人間が人間的に問われるのでなくて、却って人間的関心を



「聞くという読み方」

加来 雄之

超えて人間の存在の意味が問われてくる。」（安田理深）と語っている。先生の講義がもつ力強さは、このような求道的な関心に立った存在論的解釈の態度にあったのだと思う。聖教は、私たちが縛られている日常的な価値観を根底から揺さぶる力と構造をもっており、如（タタター）と名づけられた思いも言葉もおよばない存在の深みに私たちを呼び戻し、私たちの自己と世の中での理解を問い直し、歩み直させる。私たちが聖教を読むのは、現実から遠い彼方へと旅するためではなく、存在そのものの深みから、この与えられた脚下の現実を理解し歩みはじめるためなのだろう。

しかしながら聖教を正しく読むということは容易なことではない。すぐれて独創的な解釈にふれると、新鮮な驚きと興奮を感じるとともに、今まで僕は字面しか読めていなかったのだと愕然とする事も少なくない。私は本当に聖教を読めているのだろうか、そんな不安にかられる。

浄土三部経のなかに『阿弥陀経』という短い経典がある。『般若心経』や『観音経』とならんで、

日本の仏教徒がもっとも親しんだ経典だ。中国・唐の善導が『観無量寿経』を解釈するとき、この経を一日に何度も読み、阿弥陀仏の名を何万遍も念じている。それが不思議でならなかった。だが本当に聖教が読めているのかという不安を通すと、その意味が少し分かるように思える。この経は、阿弥陀仏がいま現に法を説く世界に生れるためには＜阿弥陀仏の名＞を聞きつづけよといい、そのことを証明する＜さまざまに仏たちの勧め＞に耳をかたむけよ、という。善導の態度は、聖教を読むことが、阿弥陀仏の名を聞くことによって成り立つことを示唆している。聖教を生み出したのは、＜今ここにあることのかぎりない深さにめざめよ＞という声なき声だからである。

私はこの大学で仏教のテキスト（聖教）を読むことの厳しさと楽しさを教えられている。思いこみの強い私は、先学や同僚や学生たちとの対論を通して、さまざまな解釈に揺れながら、聖教に自己と現実とを聞くという読み方を実践していこうと思う。（かく たけし 准教授 真宗学）

谷大エリア散策

第28回 GENPEさん（洋食店）

大学の北門から西へ歩いて約1分の洋食店、「GENPE」さんの酒井啓子さんにお話を伺いました。



酒井さんご夫婦

一お店を開かれたのはいつ頃ですか

店はもともとこの場所で終戦直後くらいから主人の母が始めたものです。当時は「源平」といい、おぜんざいなどの甘いものを出していました。その後、メニューはその時代ごとに変えていったようで、いつからか洋食の店になりました。28年前に私が引き継ぎ、リニューアルしたときから店の名前を「GENPE」にしました。

一お店のメニューをご紹介します

基本的なレシピはおばあちゃんの時代からほとんど変えていません。メニューはトンカツ、チキンカツ、ハンバーグなどオーソドックスな洋食ですが、かけているデミグラスソースがポイントで、すじ肉や野菜などを数日かけてじっくり煮込んだものです。市販のケチャップやウスターソースを使う店が多いですけど、うちは自家製のソースにこだわっています。それから味噌汁のだしも昆布とかつお節から取っています。添加物やインスタント調味料は一切使いません。豚肉は生を使い、注文をお聞きしてから切り分けます。うちの味は家庭料理と同じ、母の味ですね。その日によって味は少しずつ

違うかもしれませんが、お馴染みさんには「飽きない」と言っています。

一お店の仕事について

店は午前11時30分から午後9時まで営業しています。ランチタイムに限らず午後3時頃に昼食を食べに来られる方もおられるので、一旦店を閉めることはせずずっと開けています。主人が6年前に定年退職してからは買い物などを分担してくれるので助かっています。それまでは私とアルバイトさんだけでやりくりしていました。昔は大谷の女子学生さんにも代々アルバイトに来てもらっていましたよ。材料の値段は上がっていく一方ですが、なかなか値上げをするわけにいかず、正直しんどいんですけどずっと同じ800円前後の値段で据え置いています。



人気メニュー ハンバーグ定食

一谷大の学生や職員はよく来店しますか

大谷の学生さんや教職員の方にはよくご利用いただいています。あとお向いの関西電力の方やこの辺りの会社の方など、ご近所のお客さんが多いですね。大谷の先生の中にはもう何十年も来ていただいている方もおられます。学生時代からお越しいただいている若い先生には、なかなか「先生」と呼びすることに慣れてなくて、お一人だつて「〇〇君」と話しかけてしまうんですよ。

お馴染みさんだった学生さんが卒業してからも時々顔を見せてくださることもあります。結婚されて奥さんとお子さんを連れて来てくださったり、本山へ研修に来られたついでとか、地方で教職に就かれた方が修学旅行で京都へ来られた折に、わずかな時間を使って立ち寄ってくださることもあります。本当にうれしいですね。今年のゴールデンウィークには旅行先の鎌倉で大谷の卒業生とばったり出会いました。こんな偶然もうれしいものです。

一昔の大学の様子をご存じですか

昔は大学の構内に学寮があり、北大路側に裏門があったので、このあたりを歩き来する学生さんは多かったですよ。銭湯の帰り道に半纏を引っ掛け、お風呂の道具を持って食べにきてくれていましたけれど、下宿もワンルームマンションになり、そんな光景も見られなくなりましたね。また先輩が後輩を連れてきて、勉強やクラブのことなど、いろいろな話をしてあげている様子がよく伺えましたが、それも少なくなりました。ただ大学院ではまだそういったつながりが残っているようですね。

一ありがとうございました



北大路通りに面するお店

写真でふりかえる 大谷大学今昔



聞思館の国史学研究室

日本館の仏教学研究室



研究室（その一）

東館 紹見

楽しい夏休みの前に待ち受けている前期試験を間近に、いよいよ活気を呈しているのが、響流館の三階にある我らが「総合研究室」、通称「ソーケン」である。

ひとり書物と対峙しつつ自己と向き合う場である図書館とは一味違い、ゼミの仲間と一緒に発表の準備をしたり、先輩から辞書や資料の使い方を教わったり、輪読会で議論をたたかわせたりと、同学の士と関わり空間を共有する中で各々が自己と向き合える場であることが、今も昔も研究室の最大の魅力だろう。

一九一三（大正二）年、現在地で歩みを始めて以来、本学の研究室は三度の移転を経ている。

一九六一（昭和三六）年まで、研究室は尋源館（旧本館）にあった。戦前は、二階の中央部分に真宗学・仏教学・哲学・東洋学（東洋史・東洋仏教史・中国文学）・国史学国文学の各研究室が軒を並べていた。戦後、分野の改変で七研究室となり、今は無い旧本館両翼の一・二階に移った（この時を含めると移転は四度となる）。諸先輩にお聞きすると、一階の東南角に仏教学、その北側（袖の部分）に哲学、西南角に国史国文の研究室、二階には東南角に東洋学、その西側に日本仏教史学と西洋文学の研究室が並び、西南角に真宗学の研究室があった。

この研究室が一九六一年の聞思館竣工に伴って移転し、六五（昭和四十）年の学科再編により八研究室となる。一階南側中ほどより教育学社会学・哲学、二階には南側手前から真宗学・仏教学・国史学・東洋学、北側には西洋文学・国文学の研究室があり、現在の教員個人研究室約二室分ほどの広さに専門書が並び助手が常駐していた。この時期までの研究室は、在学生数の少なさもあってさほど大きなものではなく、厳しい中にもアットホームな雰囲気満ちていたという。

（ひがしだて しょうけん 講師 日本仏教史（古代・中世））

研究室だより

総合研究室から

7月、8月、9月の総合研究室の開室は以下のとおりです。定期試験、夏期休暇等により開室時間の変更があるので、注意してください。

7月						
1	2	3	4	5	6	7
8	9	10	11	12	13	14
15	16	17	18	19	20	21
22	23	24	25	26	27	28
29	30	31				

○定期試験による開室時間延長

定期試験の1週間前となる7月16日から7月31日の平日（青字）は、閉室時間を1時間延長し、20時30分閉室となります。

8月						
			1	2	3	4
*2	5	6	7	8	9	10
	11	12	13	14	15	16
	17	18	19	20	21	22
	23	24	25	26	27	28
	29	30	31			

○夏期休暇期間の開室日について

夏期休暇期間は、平日のみの開室となり、通常の土曜日に準じた開室時間となります。集中講義が始まる9月3日から平常開室となります。

9月						
						1
	2	3	4	5	6	7
	8	9	10	11	12	13
	14	15	16	17	18	19
	20	21	22	23	24	25
	26	27	28	29	30	

平日（黒字）は、9時開室 19時30分閉室 7月16日から7月31日の平日（青字）は9時開室 20時30分閉室
□は、10時開室 17時30分閉室 ■は、響流館の休館日（8月9日～17日は夏期一斉休館）

※1 7月16日（月）、9月24日（月）は振替休日ですが、授業実施のため開室
※2 8月5日（日）は、オープンキャンパスのため、10時開室 17時30分閉室。

短期仏教科研究室から

○『仏教研究紀要』第29号が発刊されました。ご希望の方は、短期仏教科研究室までお越しください。

学会だより

真宗学会

真宗学会大会

◎10月26日（金）

場 所：未定

発表者：加来 雄之 准教授

下田 正弘氏（東京大学教授）

仏教学会

研究発表例会

◎7月12日（木）16時10分～

場 所：響流館3階マルチメディア演習室

発表者：宮下 晴輝 教授

楠 宏生（大学院博士後期課程仏教学専攻第3学年）

修士論文中間発表会

◎10月11日（木）16時10分～

場 所：響流館3階マルチメディア演習室

研究発表例会（教員1名・博士後期課程学生1名）

◎10月25日（木）16時10分～

場 所：響流館3階マルチメディア演習室

宗教学会

大拙忌記念公開講演会

◎7月11日（水）16時10分～18時

講 師：内田 樹氏（神戸女学院大学教授）

場 所：響流館3階メディアホール

講 題：「＜存在するとは別の仕方＞－日本人の霊的成熟について」

日本史の会（国史学会・日本仏教史学会）

大谷大学日本史の会大会・総会

◎7月28日（土）13時45分～

場 所：響流館3階メディアホール

研究報告：山本 順也氏（近江八幡市立資料館）

山岡 実樹雄氏（鹿儿岛県立川内高等学校）

宮崎 健司 教授

仲川 靖氏（安土城郭研究所）

大谷大学日本史の会9月例会

◎9月29日（土）

中国文学会

卒業論文中間発表会

◎10月下旬

国文学会

国文学会大会

◎10月27日（土）14時～17時（予定）

場 所：尋源講堂

講 師：竹部 俊恵氏（妙蓮寺住職）

実 演：聖徳太子絵伝の絵解き

西洋文学研究会

西洋文学研究会年次大会

◎7月21日（土）14時～（予定）

場 所：博綜館5階第5会議室

1. 総会

2. 研究発表

・発表者：藤田 義孝 任期制助教

タイトル：「ヒツジは実在したか？－壊れやすい虚構物語『星の王子さま』」

・発表者：廣川 智貴 講師

タイトル：「クライストの古代受容－『ペンテジレーア』を中心に－」（仮題）

・発表者：三浦 誉史加氏（梅光学院大学講師）

タイトル：「『ロミオとジュリエット』における乳母と母親との関係」（仮題）

※詳細は後日掲示しますので、積極的に参加してください。

大谷中学校・高等学校からのお知らせ

◆新校舎完成（全生徒、新校舎に移転）

2年前から南校舎を取り壊して新しい校舎建設を行ってきましたが、去る3月初旬に完成しました。これによって、今までうす暗い教室での学習を余儀なくされていた多くの生徒たちの学習環境が大幅に改善され、しかも、今までの教室のイメージと大きく異なる斬新な教室となり、生徒も教員も大層喜び、それぞれの目標に向かって、日々取り組んでいます。最新の学校建築はどのようなものか少しだけ紹介しておきます。屋上は昼休みの間生徒たちにくつろぎの場として開放され、しかも、ヒートアイランド現象をおさえるために天然芝が植えられています。4階中央部は理科の各科目の特別教室や実験室が配置され、3階中央部は中高の美術・工作教室、2階は高校職員室、1階は会議室と視聴覚教室となっています。中央部より西側は普通教室棟となっていて、教室の両サイドは大変大きな窓が設置されていて、非常に明るい教室となり、さらに廊下側には生徒一人ひとりに大きなロッカーが与えられています。各階のトイレも最新設備となり生徒の評判も上々です。関心のある方は一度見学に来てください。



屋上の天然芝



新校舎の外観

◆バタバアコースを2系統に分割してスタート

今年度よりバタバアコースの高校1年生と2年生を、マスタークラスとコアクラスとに分けて授業を展開することになりました。1・2年生ともにマスタークラスは1クラスずつで、国公立受験を目指す生徒たちで編成されています。コアクラスは私立大学受験を目指す生徒たちで編成されています。このために使用する教科書や各教科の授業時間数等も変更され、生徒たちの雰囲気も変わり、教員も科目ごとの単元目標や基準設定を見直したり、公開授業を増やしたりして日々創意工夫を重ねています。2年後3年後に大きな成果が上げられるように努力しています。9月29日（土）に第1回目のオープンキャンパスを実施しますので、ご家族に中学3年生がおられる方は、一度大谷高校を訪れてください。

◆今熊野セミナーについてのお知らせ

毎回好評を得ています今熊野セミナーの今後の予定と講題をお知らせします。

講師—真城 義麿（大谷中高等学校 校長） 会場（大谷中高等学校—第一会議室）

- 第2回今熊野セミナー 6月28日（木） 14時～16時 『教育を仏教に学ぶ（2）』
- 第3回今熊野セミナー 10月11日（木） 14時～16時 『教育を仏教に学ぶ（3）』
- 第4回今熊野セミナー 12月4日（火） 14時～16時 『教育を仏教に学ぶ（4）』
- 第5回今熊野セミナー 1月28日（月） 14時～16時 『教育を仏教に学ぶ（5）』

九州大谷短期大学からのお知らせ

社会人対応の入試制度が新しくなります。

◆社会人入試制度（1次—6次募集）

生涯学習社会の実現という観点から、学習意欲に富む社会人を幅広く受け入れるため実施している入学制度です。作文試験を免除し、提出書類と面接で学科への適性などを判断します。2008年度募集より、これまで4回行っていた入試を6回に増やし受験しやすくなりました。（※専攻科福祉専攻は従来通りの4回です。）

◆社会人特別入学制度（I期—IV期）

2008年度募集よりスタートする新しい入学制度です。1回の入試で判断するのではなく、面談等を通して入学を決定していく事前相談型の入学制度です。出願が許可されれば必ず「合格」となります。

※社会人入試に関する情報は「広報室入試係」へお問い合わせ下さい。大学パンフレットと募集要項を無料で送付しています。

TEL：0942-53-9900 E-mail：kouhou@kyusyuotani.ac.jp

出版物紹介

『親鸞聖人に学ぶ—真宗入門』

一楽真 著
東本願寺出版部 刊
(2007.4) 243頁



『教義と社会』

村松法文 著
文栄堂書店 刊
(2007.2) 143頁



『風景画の窓』

國中治 著
れんが書房新社 刊
(2007.5) 288頁



『複雑系から見た心理療法理解 —心理療法基礎論に向けて—』

廣瀬幸市 著
大谷大学真宗総合研究所 刊
(2007.3) 158頁



『自然とヴィジョンの詩学—ワーズワス、コールリッジ、エリオット』

宮川清司 著
英宝社 刊
(2007.5) 263頁



『朝倉心理学講座9臨床心理学』

桑原知子 編
廣瀬幸市 分担執筆
朝倉書店 刊
(2007.4) 182頁

『多元的世界における寛容と 公共性—東アジアの視点から—』

芦名定道 編著
阿部利洋 分担執筆
晃洋書房 刊
(2007.3) 232頁

『図録 メコンの世界 —歴史と生態』

秋道智彌 編
高井康弘 分担執筆
弘文堂 刊
(2007.3) 147頁

『越境する移動と コミュニティの再構築』

佐々木衛 編
高井康弘 分担執筆
東方書店 刊
(2007.3) 270頁

『京大心理臨床シリーズ5 心理臨床における個と集団』

岡田康伸ほか 編
谷口奈青理 分担執筆
創元社 刊
(2007.3) 514頁

『中國學論叢 若槻俊秀教授退休記念』

大谷大學文藝學會 編
乾源俊・稲垣淳央・本井牧子・
浦山あゆみ・李青・佐藤義寛
(2007.3) 528頁

『東別院伝道叢書30 愚禿の名のり』

一楽真 著
真宗大谷派名古屋別院教化事業部 刊
(2007.3) 47頁

『学内刊行物』

『人権センター叢書vol.3』
大谷大学人権センター 編・刊
(2007.3) 64頁

学生相談室から

闇に向かうところ



学生相談の仕事をしていて、自分自身の学生時代の記憶が蘇ることがある。

一回生のときだ。山の宿泊所で基礎ゼミの合宿があった。確か晩に棟を移動する途中だったと思うが、なぜか一人でふらっと林に入った。そして真つ暗な木立を分け入り急な坂を降りていった。遠く下には川の音が聞こえていたのを憶えている。

別に脱走を目論んだ訳でもなく、消えてしまいたかった訳でもない。戻るか、いやまだ行ける…とひきこまれるように暗闇を降りて行った。真つ暗なのに不思議と怖さはなかった。

しばらくして、「おーい」と懐中電灯で後ろから照らされた。学生スタッフのお姉さんだった。ばつの悪い気持ちですこすこと引き返した。その後きつとスタッフ間では「要注意学生」としてマークされていたに違いない。

あのひきこまれる感じは何だったのか。今思うに、自分の意志で一步踏み出せば、一步進む。未知の場所でも自分の意志次第なのだ。その感覚が、体験として真つ暗闇の林に向かわせたのではなかっただろうか。

そして、どうしてそれが今想起されたのか

久保 聡史

を考えると、一見他人からは無意味なように見えても、また本人にとってさえもその時は無意味に思えても、実はとても重要で意味深い体験だということをいつもここで教えてもらっているからなのだろう。

(うまく声をかけて現実には引き戻し、見守ってくれていた当時の先輩方には感謝である。)

(くぼ さとし)

学生相談室の開室について

場 所	曜 日	学生相談員	相談日時
学生相談室 (博綜館1階)	月曜日	谷口 奈青理 神田 敬子	10時30分～16時00分
	火曜日	西澤 伸太郎	10時30分～16時00分
	水曜日	宇佐 晋一 (神経科校医)	第2週・第4週 13時00分～16時00分
	木曜日	讓 西賢	10時30分～16時00分
	金曜日	久保 聡史	10時30分～16時00分

【学生数】

(2007年6月1日現在)

学部	学 科	第1学年			第2学年			第3学年			第4学年			合 計		
		男	女	計	男	女	計	男	女	計	男	女	計	男	女	計
文学部	真宗学科	75	5	80	54	6	60	88	18	106	134	11	145	351	40	391
	仏教学科	70	14	84	67	24	91	61	18	79	77	20	97	275	76	351
	哲学科	66	30	96	62	31	93	55	16	71	65	31	96	248	108	356
	社会学科	91	77	168	126	82	208	102	93	195	83	90	173	402	342	744
	史学科	55	33	88	42	45	87	49	41	90	57	39	96	203	158	361
	文学科	36	47	83	30	64	94	29	60	89	33	53	86	128	224	352
	国際文化学科	61	83	144	49	68	117	51	72	123	42	78	120	203	301	504
	人文情報学科	72	48	120	65	39	104	73	37	110	87	39	126	297	163	460
文学部合計	526	337	863	495	359	854	508	355	863	578	361	939	2107	1412	3519	
大学院	修士課程	36	13	49	38	11	49							74	24	98
	博士後期課程	11	1	12	12	2	14	17	5	22				40	8	48
	大学院合計	47	14	61	50	13	63	17	5	22				114	32	146
短期大学部	仏教科	12	7	19	15	11	26							27	18	45
	文化学科	13	63	76	14	66	80							27	129	156
	幼児教育科・幼児教育保育科	14	89	103	18	83	101							32	172	204
	短期大学部合計	39	159	198	47	160	207							86	319	405
総 合 計	612	510	1122	592	532	1124	525	360	885	578	361	939	2307	1763	4070	

2008年度 入学試験日程

【大谷大学文学部】

試験制度	学 科 ・ コース	募集人員	出 願 期 間	試 験 日	合格発表日	入学手続締切日
自己推薦入試	真 宗 学 科	10名	9月14日(金)～ 9月26日(火) (締切日消印有効)	第1次審査(書類選考)	10月5日(金)	第1次 11月13日(火) 第2次 1月29日(火) (いずれも締切日消印有効)
	哲 学 科	10名				
	社 会 学 科	10名		第2次審査(面接) 10月14日(日)	10月24日(火)	
	歴 史 学 科	10名				
	文 学 科	10名				
	国 際 文 化 学 科	10名				
	人 文 情 報 学 科	10名				
公募制推薦入試 (A方式=小論文型)	真 宗 学 科	10名	10月22日(月)～ 11月2日(金) (締切日消印有効)	11月17日(土)午後 11月18日(日)午後 (試験日自由選択制)	11月29日(火)	第1次 12月13日(木) 第2次 1月29日(火) (いずれも締切日消印有効)
	哲 学 科	8名				
	社 会 学 科	10名				
	歴 史 学 科	20名				
	文 学 科	10名				
	国 際 文 化 学 科	10名				
	人 文 情 報 学 科	10名				
公募制推薦入試 (B方式=1教科型)	真 宗 学 科	10名	10月22日(月)～ 11月2日(金) (締切日消印有効)	11月17日(土) 午前	11月29日(火)	第1次 12月13日(木) 第2次 1月29日(火) (いずれも締切日消印有効)
	哲 学 科	8名				
	社 会 学 科	10名				
	歴 史 学 科	20名				
	文 学 科	10名				
	国 際 文 化 学 科	10名				
	人 文 情 報 学 科	10名				
一般入試 [第1期] (3教科型)	真 宗 学 科	18名	1月8日(火)～ 1月22日(火) (締切日消印有効)	2月4日(月) 2月5日(火) (試験日自由選択制)	2月19日(火)	第1次 3月3日(月) 第2次 3月19日(火) (いずれも締切日消印有効)
	哲 学 科	14名				
	社 会 学 科	18名				
	歴 史 学 科	40名				
	文 学 科	30名				
	国 際 文 化 学 科	18名				
	人 文 情 報 学 科	25名				
一般入試 [第1期] (2教科型)	真 宗 学 科	10名	1月8日(火)～ 1月22日(火) (締切日消印有効)	2月6日(水) 2月7日(木) (試験日自由選択制)	2月19日(火)	第1次 3月3日(月) 第2次 3月19日(火) (いずれも締切日消印有効)
	哲 学 科	10名				
	社 会 学 科	10名				
	歴 史 学 科	20名				
	文 学 科	10名				
	国 際 文 化 学 科	15名				
	人 文 情 報 学 科	15名				
一般入試 [第2期]	真 宗 学 科	4名	2月12日(火)～ 2月25日(月) (締切日消印有効)	3月7日(金) 午前	3月13日(木)	3月19日(火) (締切日消印有効)
	哲 学 科	3名				
	社 会 学 科	4名				
	歴 史 学 科	8名				
	文 学 科	5名				
	国 際 文 化 学 科	4名				
	人 文 情 報 学 科	5名				
一 般 入 試 [大学入試センター試験 利用入試]	真 宗 学 科	4名	1月8日(火)～ 1月18日(金) (締切日消印有効)	1月19日(土) 1月20日(日) 大学入試センター試験 (本学での個別学力試験等は課さない)	2月19日(火)	第1次 3月3日(月) 第2次 3月19日(火) (いずれも締切日消印有効)
	哲 学 科	3名				
	社 会 学 科	4名				
	歴 史 学 科	8名				
	文 学 科	5名				
	国 際 文 化 学 科	4名				
	人 文 情 報 学 科	5名				
第 3 学 年 外国人留学生推薦編入学試験	各 コース	中華人民共和国 東北師範大学 首都師範大学 より各1名以内 [注3]	5月18日(金)～ 5月31日(木)	7月17日(火) 筆記・面接	7月20日(金)	第1次 11月13日(火) 第2次 1月29日(火)
第 3 学 年 社会人編入学試験	各 コース	若干名 [注4]	9月25日(火)～10月5日(金) (締切日消印有効)	10月21日(日) 小論文・面接	10月30日(火)	第1次 11月13日(火) 第2次 1月29日(火) (いずれも締切日消印有効)
第 3 学 年 推 薦 編 入 [前期日程] [注1]	各 コース	75名以内 [注5]	9月25日(火)～10月10日(水) (締切日消印有効)	10月21日(日) 面接	10月30日(火)	第1次 11月13日(火) 第2次 1月29日(火) (いずれも締切日消印有効)
第 3 学 年 推 薦 編 入 [後期日程] [注2]			11月16日(金)～11月30日(金) (締切日消印有効)	12月15日(土) 面接	12月21日(金)	第1次 1月29日(火) 第2次 3月19日(火) (いずれも締切日消印有効)
第 3 学 年 一般編入学試験	各 コース	若干名 [注6]	1月28日(月)～2月12日(火) (締切日消印有効)	2月26日(火) 筆記・面接	3月6日(木)	3月19日(火) (締切日消印有効)

- [注1] 大谷大学短期大学部文化学科、九州大谷短期大学を2007年度前期卒業、又は卒業見込者に限る。
 [注2] 大谷大学短期大学部仏教科・幼児教育保育科、九州大谷短期大学、その他の指定短大を2007年度前期卒業、又は卒業見込者に限る。
 [注3] 社会学科(社会福祉学コース・臨床心理学コース)・人文情報学科(人文情報学コース)は募集しない。
 [注4] 社会学科(社会福祉学コース・臨床心理学コース)・人文情報学科(人文情報学コース)は募集しない。
 [注5] 募集コース・人数は指定短大ごとに異なる。大谷大学短期大学部・九州大谷短期大学では社会学科(臨床心理学コース)、その他の指定短大では社会学科(社会福祉学コース・臨床心理学コース)・人文情報学科(人文情報学コース)の募集はしない。
 [注6] 社会学科(社会福祉学コース・臨床心理学コース)・人文情報学科(人文情報学コース)は募集しない。

【大谷大学短期大学部】

試験制度	学 科	募集人員	出 願 期 間	試 験 日	合格発表日	入学手続締切日
自己推薦入試	仏 教 科	10名	9月14日(金)～ 9月26日(火) (締切日消印有効)	第1次審査(書類選考)	10月5日(金)	第1次 11月13日(火) 第2次 1月29日(火) (いずれも締切日消印有効)
	文 化 学 科	10名				
	幼 児 教 育 保 育 科	10名				
公募制推薦入試 (A方式=小論文型)	仏 教 科	10名	10月22日(月)～ 11月2日(金) (締切日消印有効)	11月17日(土)午後 11月18日(日)午後 (試験日自由選択制)	11月29日(火)	第1次 12月13日(木) 第2次 1月29日(火) (いずれも締切日消印有効)
	文 化 学 科	10名				
公募制推薦入試 (B方式=1教科型)	幼 児 教 育 保 育 科	15名	10月22日(月)～ 11月2日(金) (締切日消印有効)	11月18日(日) 午前	11月29日(火)	第1次 12月13日(木) 第2次 1月29日(火) (いずれも締切日消印有効)
	仏 教 科	10名				
一般入試 [第1期]	文 化 学 科	10名	1月8日(火)～ 1月22日(火) (締切日消印有効)	2月4日(月) 2月5日(火) (試験日自由選択制)	2月19日(火)	第1次 3月3日(月) 第2次 3月19日(火) (いずれも締切日消印有効)
	幼 児 教 育 保 育 科	20名				
	仏 教 科	5名				
一般入試 [第2期]	文 化 学 科	5名	2月12日(火)～ 2月25日(月) (締切日消印有効)	3月7日(金) 午前	3月13日(木)	3月19日(火) (締切日消印有効)
	幼 児 教 育 保 育 科	5名				
	仏 教 科	5名				
一 般 入 試 [大学入試センター試験 利用入試]	文 化 学 科	2名	1月8日(火)～ 1月18日(金) (締切日消印有効)	1月19日(土)・20日(日) 1月18日(金) 大学入試センター試験 (本学での個別学力試験等は課さない)	2月19日(火)	第1次 3月3日(月) 第2次 3月19日(火) (いずれも締切日消印有効)
	仏 教 科	2名				
	幼 児 教 育 保 育 科	4名				

【大谷大学大学院】

試験制度	課 程	募集人員	出 願 期 間	試 験 日	合格発表日	入学手続締切日
秋 季 試 験	修 士 課 程	各専攻共 定員の50%程度	9月25日(火)～ 10月5日(金) (締切日消印有効)	10月20日(土)筆記 10月21日(日)面接	10月30日(火)	第1次 11月13日(火) 第2次 1月29日(火) (いずれも締切日消印有効)
			10月1日(月)～ 10月31日(日)	12月15日(土) 筆記・面接	12月21日(金)	1月29日(火)
外 国 人 留 学 生 入 試	博 士 後 期 課 程	若干名	9月25日(火)～ 10月5日(金) (締切日消印有効)	10月20日(土) 小論文・面接	10月30日(火)	第1次 11月13日(火) 第2次 1月29日(火) (いずれも締切日消印有効)
			1月28日(月)～ 2月12日(火) (締切日消印有効)	2月27日(水)筆記 2月28日(木)面接	3月6日(木)	3月19日(火) (締切日消印有効)
春 季 試 験	博 士 後 期 課 程	18名	1月28日(月)～ 2月12日(火) (締切日消印有効)	2月27日(水)筆記 2月28日(木)面接	3月6日(木)	3月19日(火) (締切日消印有効)
			各専攻共 定員の50%程度			

学びたい気持ちにこたえます！ 2007年度後期生涯学習講座案内

大谷大学では様々な教養を身につけたい方に、本学の知的資産をベースとした生涯学習講座を開講しています。本学ならではの宗教・信仰を求めていく講座、現代社会をいかに生きるのかをテーマとする講座、京都の文化の奥深さを知る講座など、切り口は多様ですが、共通するテーマは「人間」です。大谷大学の生涯学習講座にご期待ください。

○開放セミナー 大乘仏教のあゆみ —親鸞の眼を通して—

—概要—

2011年の宗祖親鸞聖人750回御遠忌を記念した開放セミナー「大乘仏教のあゆみ—親鸞の眼を通して—」を開講します。親鸞の『正信偈』や『高僧和讃』にでてくる七高僧（龍樹・天親・曇鸞・道綽・善導・源信・法然）はどんな人たちだったのでしょうか。親鸞はまた、仏教が日本に伝わるはじまりに聖徳太子を置き「和国の教主」として称えています。本講座は、仏教がインドで生まれ中国を経て日本に伝わり、さらなる展開を遂げていく様子を、真宗学・仏教学・史学の各分野の視点から学ぶものです。

本学学長による総論（2007年度後期）によってスタートし、龍樹・天親・曇鸞・道綽・善導・源信・法然・聖徳太子（2010年度前期）の“人と思想”をテーマにして本学教員がリレー講義を行い、親鸞の眼を通した大乘仏教のあゆみを明らかにしていきます。

—開講計画—

	前期 5～7月	後期 10～12月	冬期 2～3月
2007年		①総論（3回）	②龍樹（6回）
2008年	③天親（6回）	④曇鸞（6回）	⑤道綽（6回）
2009年	⑥善導（6回）	⑦源信（6回）	⑧法然（6回）
2010年	⑨聖徳太子（6回）		

○大乘仏教のあゆみ —親鸞の眼を通して—① 「総論—教主釈尊—」

講 師 木村宣彰（本学学長）

開講日 10月31日・11月14日・12月5日（水曜日）

時 間 18:00～19:30

定 員 100名

会 場 メディアホール

受講料 3,000円（税込）

○大乘仏教のあゆみ —親鸞の眼を通して—② 「大乘仏教の礎—龍樹—」

講 師 兵藤一夫（本学教授）／宮下晴輝（本学教授）

木越康（本学准教授）

開講日 2008年2月13・20・27日・3月5・12・19日（水曜日）

時 間 18:00～19:30

定 員 100名

会 場 メディアホール

受講料 6,000円（税込）

○開放セミナー 異端の俳人 芭蕉の見た夢 —『おくのほそ道』が開いた世界—

—概要—

俳諧は付合文芸です。付合文芸とは、会話・対話をそのままに、世界の展開を楽しむ文芸です。その会話の世界に、独詠を持ちこんだのが、異端の俳人・松尾芭蕉です。

芭蕉は、世界の展開をなりゆきまかせにせず、自らの意志で律し、一つのドラマを作りあげようとしてきました。

『土佐日記』や『東関紀行』にならって、旅のドラマを歌でなく発句で成し遂げた『おくのほそ道』は、どのような世界を開いたのでしょうか。

—講座内容—

①付合文芸・芭蕉・歌仙

講 師 沙加戸弘（大谷大学教授）

②旅立 ー前途三千里ー	開講日 10月18・25日・11月1・15・22・29日（木曜日）
③白川の関 ー旅心ー	時 間 18:00～19:30
④松島・平泉 ー兵どもが夢の跡ー	定 員 100名
⑤最上川 ーこのたびの風流、爰に至れりー	会 場 メディアホール
⑥北陸道 ー恋の宿、別れの秋ー	受講料 6,000円（税込）

○開放セミナー いま、家族に起こっていること、家族にできること

ー概要ー

今日、子どもや若者の非行や犯罪、ニートや引きこもりが世間の耳目を集め、また未婚化や少子化が社会問題となっている。一方、急速に進行する長寿社会にあって、高齢者の生活や介護についても先行きが見通しにくい。このような状況下で、いま家族のありようや責任が大いに問われている。家族に関する様々な問題をみつめながら、我々がより豊かな人生を送るために何が必要なのかを考えてみたい。

ー講座内容ー

①いま、なぜ家族か ー日本の家族の戦後、そして現在ー	講 師 松村尚子(本学教授)／安井喜行(大谷大学教授)
②現在の親と子 ー豊かさの中の家族関係ー	山下憲昭(大谷大学教授)
③現在の親と子 ー子ども虐待はなぜ？ー	開講日 10月22・29・11月5・26・12月3・10日（月曜日）
④長寿社会と家族 ー介護は誰の仕事か？ー	時 間 18:00～19:30
⑤長寿社会と家族 ー高齢者の生活問題ー	定 員 100名
⑥地域社会と家族 ー家族と地域をどう再構築するかー	会 場 メディアホール
	受講料 6,000円（税込）

○紫明講座 「本願寺はなぜ京にあるのか」

ー概要ー

天正19（1591）年、本願寺は京都に帰った。まもなく東本願寺が分立する。両本願寺が京都にあることが当たり前になった。成り立ちが京都であったにしても、寛正6（1465）年に京を追われ、120余年にわたって処々を転々とした本願寺が京都に戻されたのは何故か。それなら、そもそも京を追われたのはなぜか、大坂での信長との戦いは何だったのか。本願寺の戦国期の歴史を追いながら、京都との関わりを探る。

ー講座内容ー

①京に帰った本願寺	講 師 大桑齊（本学名誉教授）
②本願寺、京を追われる	開講日 12月6・13・20日（木）
③本願寺、大坂で戦う	時 間 18:00～19:30
	定 員 100名
	会 場 メディアホール
	受講料 3,000円（税込）

※他にも多数のプログラムを開講します。詳細な講座案内を希望の方は、教育研究支援課までお問合せください。
講座案内は7月下旬に発行予定です。
また受講申し込みの際には、ハガキ、FAX、Eメールいずれかにて、①講座名②氏名・フリガナ③郵便番号・住所④電話番号を明記してください。

連絡先

教育研究支援課KO係

TEL：075-411-8161 FAX：075-411-8162 Eメール：opensemi@sec.otani.ac.jp

窓口開室時間：平日9：00～17：00

※日程など変更になる場合があります。その旨ご了承くださいますようお願いいたします。



財務の概況

大谷大学 大谷大学短期大学部

—大谷大学・大谷大学短期大学部 2006年度決算—

2006年度決算は、公認会計士および監事の監査を経て、5月23日に開催された学校法人真宗大谷学園理事会・評議員会において承認されました。

本学の会計は、公認会計士による監査を定期的に受けて処理されています。また、計算書類は、「学校法人会計基準」に従って、「資金収支計算書」「消費収支計算書」「貸借対照表」を作成しており、毎年決算承認後文部科学大臣に届け出ています。

■資金収支計算書

資金収支計算書は、その年度の教育研究活動などの諸活動に対応する収入と支出のほか、その年度内のすべての収入と支出の顛末を明らかにするものです。したがって、資金収入には、授業料や入学検定料、寄付金、国からの補助金のほか、次年度の授業料等の前受金なども含まれます。資金支出には、人件費や教育研究にかかる経費、学生募集・広報など管理部門にかかる経費、借入金返済支出、施設関係支出、設備関係支出などが含まれます。

資金収支の概況

資金収支計算書に基づいて概要を説明いたします。

2006年度の収入（「収入の部合計」－「前年度繰越支払資金」）は、54億1700万円、支出（「支出の部合計」－「次年度繰越支払資金」）は50億5000万円となりました。

収入の部では、学生生徒等納付金収入が前年度比2.4%減の43億7700万円となり収入総額の80.8%を占めました。この減収は、学生数の定員の減少に伴う在籍者数の減少によるものです。入学志願者の検定料を含む手数料収入も前年度比1.5%減の1億4300万円となりました。

寄付金収入は、前年度比9.7%増の2億200万円となりました。これは、大口の寄付をいただいたためです。補助金収入は国や地方公共団体からの補助金で、前年度とほぼ同額の4億2400万円余りとなりました。また、2006年度からは2件の受託研究を引き受けたことにより、事業収入が昨年度に比べ1億円ほど増額して、1億2500万円となりました。

2006年度の支出は、人件費が27億5300万円となり前年度とほぼ同額となっています。学生の皆さんの教育研究および学生生活に直接かかわる教育研究経費は、10億5800万円となり前年度比6.2%の減となっています。この経費には、2006年度に開室した語学

学習支援室や海外研修、各種就職講習などにかかった経費が含まれています。学生募集や総務、財務にかかわる管理経費は、前年度とほぼ同額の4億4700万円となりました。

施設関係支出では、Big Valley Cafeの改修や教室の空調設備改修など学生生活の充実や教育環境の整備のために、2000万円を支出しました。

設備関係支出では、9600万円を支出しました。至誠館に置かれているタッチパネルや教室のAV機器、また図書館に所蔵する啓蒙図書から専門図書までの図書の購入費です。他に博物館の資料となる「平安城東西南北町并之図」などを購入しています。

資産運用支出では、将来校舎等を整備するためや、パソコンやその他の機材等設備の更新などのために5億円を積み立てました。

2006年度資金収支計算書（2006年4月1日～2007年3月31日）（単位 円）

収入の部		支出の部	
科目	金額	科目	金額
学生生徒等納付金収入	4,376,657,375	人件費支出	2,753,012,788
手数料収入	143,278,010	教育研究経費支出	1,057,518,906
寄付金収入	202,171,400	管理経費支出	446,630,187
補助金収入	423,901,031	借入金等利息支出	33,268,400
国庫補助金収入	422,776,625	分担金支出	10,000,000
地方公共団体補助金収入	374,406	借入金等返済支出	131,100,000
その他の補助金収入	750,000	施設関係支出	19,553,127
資産運用収入	71,005,510	設備関係支出	96,269,265
事業収入	124,856,100	資産運用支出	500,321,034
雑収入	134,526,857	その他の支出	53,724,298
前受金収入	804,857,500		
その他の収入	88,547,268		
資金収入調整勘定	△952,650,820	資金支出調整勘定	△51,826,526
前年度繰越支払資金	6,957,322,464	次年度繰越支払資金	7,324,901,216
収入の部合計	12,374,472,695	支出の部合計	12,374,472,695

科目の説明はP.47をご参照ください。

■消費収支計算書

消費収支計算書は、授業料や寄付金など負債とされない収入（帰属収入）と、施設・設備関係の減価償却額や資産の除却額などを含む、その年度に消費する支出（消費支出）との内容及び均衡の状態を明らかにするものです。すなわち、その年度の負債以外の収入と、人件費や諸経費などのいわゆるコスト

を比べ、バランスが取れているかを見るためのものです。

教育研究を提供する学校法人は、学校を永続的に維持する責任がより一層求められています。そのためには、資金収支の整合性が取れているだけでなく、帰属収入から必要な資産を継続的に保持するために組入れる基本金への組入額を引いた額（消費収入）と、消費支出とのバランスを見ることによって、当該年度だけでなく、将来的な財政の健全性を見ることが重要になってきます。この点、資金収支計算書に比べ消費収支計算書は、長期的な観点をもっているものといえます。

消費収支の概況

資金収支計算書と重複する項目を除いて説明します。収入では寄付金の中に、金額換算した現物寄付1600万円が含まれています。その中には、教育後援会から寄贈していただいた教室の液晶プロジェクターの設備やBig Valley Cafeの机、椅子などが含まれています。

帰属収入の合計は、受託研究を引き受けたこともあり、前年度比1.4%増の54億9300万円となりました。

支出では教育研究経費と管理経費の中に、建物や機器備品等の減価償却額が含まれています。教育研究経費の減価償却額は7億5500万円、管理経費の減価償却額は2200万円となっています。

2006年度は、受託研究による事業収入が伸びたこともあり、当年度消費収入超過額が5200万円となり、翌年度繰越消費収入超過額は42億1700万円となりました。

2006年度消費収支計算書（2006年4月1日～2007年3月31日）（単位 円）

消費収入の部		消費支出の部	
科 目	金 額	科 目	金 額
学生生徒等納付金	4,376,657,375	人件費	2,763,109,319
手数料	143,278,010	教育研究経費	1,813,546,021
寄付金	218,278,340	（うち減価償却額）	(755,250,378)
補助金	423,901,031	管理経費	471,111,327
国庫補助金	422,776,625	（うち減価償却額）	(22,180,987)
地方公共団体補助金	374,406	借入金等利息	33,268,400
その他の補助金	750,000	分担金	10,000,000
資産運用収入	71,005,510	資産処分差額	1,481,029
事業収入	124,856,100		
雑収入	134,670,857	消費支出の部合計	5,092,516,096
帰属収入合計	5,492,647,223	当年度消費収入超過額	52,414,390
基本金組入額合計	△347,716,737	前年度繰越消費収入超過額	4,164,799,990
消費収入の部合計	5,144,930,486	翌年度繰越消費収入超過額	4,217,214,380

貸借対照表

学校法人の目的である教育研究活動を達成するためには、膨大な施設や設備など各種の運用財産を必要とします。貸借対照表は、これらの財産の保有状況を表し、教育研究に必要な財産が適正に維持管理

されているかどうかを示すものです。この貸借対照表はその意味で重要であり、消費収支計算書とともに長期的な観点を持つものといえます。

ここでの資産は、保有する土地、建物、現金預金などを示し、負債とは、借入金や退職給与引当金など、いずれ支出となっていくものを示します。基本金は、学校法人が必要な資産を永続的に維持するために、帰属収入のうちから組入れたものです。この基本金と消費収支差額の合計が正味財産となります。

貸借対照表の概況

ここに掲載した貸借対照表は、大谷大学・大谷大学短期大学部を設置する学校法人真宗大谷学園全体のものです。学校法人真宗大谷学園は、大谷大学・大谷大学短期大学部のほか、九州大谷短期大学、大谷高等学校、大谷中学校、大谷幼稚園を設置しています。

資産の総額は、482億8300万円で、前年度に比べて4億8000万円の増加となりました。内訳は、土地、建物、備品、図書および引当特定資産などの固定資産が384億8600万円、現金預金などの流動資産が97億9700万円となっています。

負債の合計は、51億6500万円で、前年度に比べて1億6900万円の減少となりました。内訳は、退職給与引当金などの固定負債が36億4900万円、未払金や前受金などの流動負債が15億1600万円となっています。

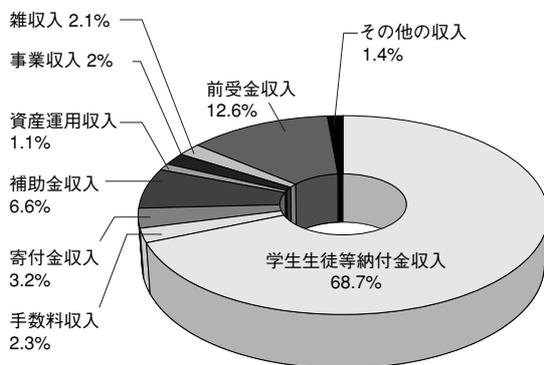
基本金は、389億4500万円となり、前年度に比べて5億4500万円の増加となっています。

貸借対照表
真宗大谷学園総括表
(2007年3月31日)

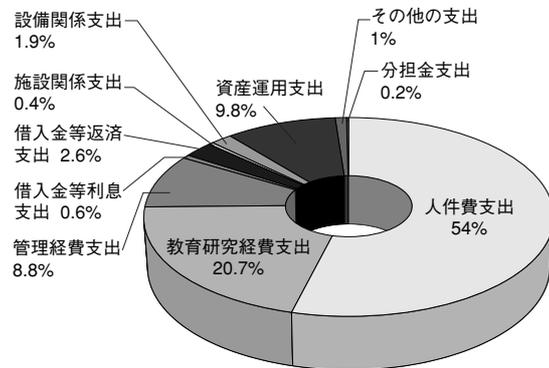
(単位 円)

資産の部		負債及び基本金の部	
科 目	2006年度末	科 目	2006年度末
土地	8,779,418,764	長期借入金	1,576,730,000
建物	11,597,430,022	退職給与引当金	2,072,402,582
構築物	441,628,725	固定負債計	3,649,132,582
教育研究用機器備品	645,196,765	短期借入金	151,360,000
その他の機器備品	25,672,785	未払金	131,847,140
図書	3,423,815,700	前受金	1,140,891,500
車輛	8,088,918	預り金	91,658,051
建設仮勘定	1,212,461,569	流動負債計	1,515,756,691
電話加入権	3,443,124	負債の部合計	5,164,889,273
施設利用権	925,814		
敷金	1,255,000	第1号基本金	34,769,557,255
預託金	161,950	第2号基本金	3,000,000,000
長期貸付金	142,513,590	第3号基本金	625,671,471
引当特定資産	12,203,821,079	第4号基本金	550,000,000
固定資産計	38,485,833,805	基本金の部合計	38,945,228,726
現金預金	9,601,259,845		
未収入金	175,523,457		
貯蔵品	7,352,708		
仮払金	4,266,633		
前払金	8,891,516		
立替金	3,894		
流動資産計	9,797,298,053	翌年度繰越消費収入超過額	4,173,013,859
合計	48,283,131,858	合計	48,283,131,858

2006年度資金収支（収入の部）



2006年度資金収支（支出の部）



財産目録

真宗大谷学園総括表

2007年3月31日

I	資産総額	金	48,283,131,858円
	内 1	基本財産	金 26,282,012,726円
	2	運用財産	金 22,001,119,132円
II	負債総額	金	5,164,889,273円
III	正味財産	金	43,118,242,585円

科	目	2006年度末
一	資産額	
(一)	基本財産	26,282,012,726円
1	土地	156,309.05㎡ 8,779,418,764円
	大谷大学・大谷大学短期大学部校地	85,202.63㎡ 7,895,139,063円
	九州大谷短期大学校地	35,071.29㎡ 402,745,005円
	大谷高等学校・大谷中学校校地	33,039.73㎡ 457,889,796円
	大谷幼稚園校地	2,995.40㎡ 23,644,900円
2	建物	104,751.62㎡ 11,597,430,022円
(1)	校舎	68,629.53㎡ 7,400,332,642円
(2)	図書館	9,539.61㎡ 1,797,215,992円
(3)	講堂・体育館	19,160.07㎡ 1,987,065,390円
(4)	寄宿舎	7,347.14㎡ 403,227,806円
(5)	その他	75.27㎡ 9,588,192円
3	図書	875,346冊 3,423,815,700円
4	教具・校具・備品	20,325点 670,869,550円
5	構築物	441,628,725円
6	車輛	8,088,918円
7	電話加入権	3,443,124円
8	施設利用権	925,814円
9	敷金	1,255,000円
10	預託金	161,950円
11	長期貸付金	142,513,590円
12	建設仮勘定	1,212,461,569円
(二)	運用財産	22,001,119,132円
1	預金、現金	9,601,259,845円
	現金 現金手許有高	3,562,252円
	普通預金	1,780,102,607円
	定期預金	7,697,400,000円
	譲渡性預金	100,000,000円
	当座預金	2,509,221円
	通常貯金	10,814,904円
	振替口座	6,870,861円
2	積立金	12,203,821,079円
3	貯蔵品	7,352,708円
4	未収金	175,523,457円
5	前払金	8,891,516円
6	仮払金	4,266,633円
7	立替金	3,894円
	資産総額	48,283,131,858円
二	負債総額	
1	固定負債	3,649,132,582円
(1)	長期借入金	1,576,730,000円
	日本私立学校振興・共済事業団	1,576,730,000円
(2)	退職給与引当金	2,072,402,582円
2	流動負債	1,515,756,691円
(1)	短期借入金	151,360,000円
(2)	前受金	1,140,891,500円
(3)	未払金	131,847,140円
(4)	預り金	91,658,051円
	負債総額	5,164,889,273円
三	正味財産（資産総額－負債総額）	43,118,242,585円

一大谷大学・大谷大学短期大学部 2006年度事業報告一

《教育及び学生支援に関する事業》

①大学院教育の充実

「京都・宗教系大学院連合（2005年7月設立）」加盟校間の協定に基づく単位互換制度を当年度より実施し、他大学から13名受入れ、本学から8名送り出しました。また大学院特別セミナーを開講し、フランスよりロータモンド博士を招聘しました。9月4日～9月13日に講義、9月15日に公開講演会を開催しました。

②国際交流の促進

中国・イギリス・ドイツ・インドの4カ国への語学研修、文化研修に108名の学生を派遣しました。また修士課程に6名、博士後期課程5名、留学研究生7名の留学生を受け入れたほか、本学学生を韓国の東國大学校やアメリカのカリフォルニア大学アーバイン校に送り出しました

さらに中国北京で帰国留学生交流会を開催し、元留学生のほか交換教員として大谷大学で教鞭をとられた先生など18名が参加されました。

③語学学習支援室（GLOBAL SQUARE）の開設

学生の語学学習や留学を支援する施設として、6月1日、GLOBAL SQUAREを開設しました。英語、韓国・朝鮮語、中国語、ドイツ語、フランス語に関する資料を備え、留学情報、渡航関連情報なども提供しています。各種勉強会や交流会など、年間に16回の行事を催しました。

④教育・研究支援事業への学生参画の拡大

授業現場で教育活動を支援するティーチングアシスタント、授業を受講する際にサポートするノートテイクや板書テイク、情報教育アシスタント、図書館の選書に学生が参画する学生選書プロジェクトに加え、当年度は博物館の展示解説に学生が参画する制度を開始しました。

⑤教育職員を目指す学生への支援の拡大

校内には専門の職員を配置する教職支援センターを設置するとともに、京都府・市教育委員会との協定に基づき、将来教職に就きたい学生を対象とした学生ボランティア派遣を実施しました。当年度は教育局や学校に32名の学生を派遣しました。

《学術及び研究に関する事業》

①学位授与

優れた研究業績をまとめ、博士の学位申請を行った者の中から厳密な審査を経て、課程博士11名に対して博士（文学）の学位を授与しました。

②真宗総合研究所の研究

学長を代表者とする指定研究として、(1)大谷大学親鸞聖人750回御遠忌記念特別指定研究－親鸞像の再構築－(2)大学史研究(3)国際仏教研究(4)西藏文献研究(5)真宗本廟（東本願寺）造営史研究の5件、一般研究として採択された共同研究4件、個人研究3件、合計12件の研究プロジェクトを推進しました。

《組織及び施設に関する事業》

①認証評価への取組

2008年に申請予定の認証評価（第三者評価）に向けて、点検項目に従い6つの部会を設置し、全学的な体制で点検及び改善への取り組みを開始しました。また点検作業の一環とした学生による「授業評価アンケート」の形式を改善し、結果報告を公開しました。

②喫茶「Big Valley Cafe」をオープン

校内食堂の混雑を緩和するために、学生代表の意見や要望を取り入れて、従来からあった喫茶スペースを増改築しました。ウッドデッキのオープンテラスを設け、コーヒーなどのドリンクのほか焼きたてパンやスープ、サラダを提供する明るく開放的なカフェに変身しました。

《社会への開放》

①公開講座の開講

本学教員が講師を務め、開放セミナー、黎明講座として年間を通じて開講しました。当年度は17テーマの講座を開講し、計801名の受講生がありました。また、湖西キャンパスにおいても近隣住民の皆さんを対象としてセミナーを開講したほか、e-公開セミナー（eラーニング）も前年に引き続き開講しました。

②博物館

毎年年1回の特別展と4回の企画展を実施しています。当年度の特別展は「鈴木大拙没後四十年記念 大拙 その人と学問」をテーマに展示しました。

監査報告書

平成19年5月22日

学校法人 真宗大谷学園
理事会 御中
評議員会 御中

学校法人 真宗大谷学園

監事 岩田 宗三郎 印

監事 入江 正俊 印

監事 柴田 正次郎 印

私たちは、学校法人真宗大谷学園の監事として、私立学校法第37条第3項に基づいて同学園の平成18年度（平成18年4月1日から平成19年3月31日まで）における財産目録及び計算書類（資金収支計算書、消費収支計算書、貸借対照表）を含め、学校法人の業務及び財産に関し監査を行いました。

私たちは、監査にあたり、理事会その他の重要な会議に出席するほか、期中には各設置校において、理事などから事業計画のあゆみの報告を聴取し、また重要な書類などを閲覧し必要と思われる監査手続きを実施しました。

総合して監査の結果、私たちは学校法人真宗大谷学園の平成19年3月31日現在の財産目録及び計算書類を含め、学校法人の業務及び財産に関する不正の行為又は法令若しくは寄附行為に違反する重大な事実のないことを認めました。

以上

独立監査人の監査報告書

平成19年5月28日

学校法人真宗大谷学園
理事会 御中

市田公認会計士事務所

公認会計士 市田 浩三 印

渡邊健吾公認会計士事務所

公認会計士 渡邊 健吾 印

私たちは、私立学校振興助成法第14条第3項の規定に基づく監査報告を行うため、昭和51年7月13日付け文部省告示第135号に基づき、学校法人真宗大谷学園の平成18年度（平成18年4月1日から平成19年3月31日まで）の計算書類、すなわち、資金収支計算書（人件費支出内訳表を含む）、消費収支計算書及び貸借対照表（固定資産明細表、借入金明細表及び基本金明細表を含む。）について監査を行った。この計算書類の作成責任は理事者であり、私たちの責任は独立の立場から計算書類に対する意見を表明することにある。

私たちは、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して監査を行った。監査の基準は、私たちに計算書類に重要な虚偽の表示がないかどうかの合理的な保証を得ることを求めている。監査は、試査を基礎として行われ、理事者が採用した会計方針及びその適用方法並びに理事者によって行われた見積りの評価も含め全体としての計算書類の表示を検討することを含んでいる。私たちは、監査の結果として意見表明のための合理的な基礎を得たと判断している。

私たちは、上記の計算書類が、学校法人会計基準（昭和46年文部省令第18号）に準拠して、学校法人真宗大谷学園の平成19年3月31日をもって終了する会計年度の経営の状況及び同日現在の財政状態をすべての重要な点において適正に表示しているものと認める。

学校法人と私たちとの間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以上

一大谷大学・大谷大学短期大学部 2007年度予算一

2007年度予算は、3月23日に開催された学校法人真宗大谷学園理事会・評議員会において承認されました。

大谷大学では、仏教精神によって自己を問うことを学びの基本理念としており、「自己とは何ぞや」を問い続け、人間として生きるための智慧を身につけることが何よりも重要なことと考えています。本学に入学した学生の皆さんが、さまざまな「学び」と「出会い」を通して真に人間として身につけなくてはならない智慧を得られるよう、教育研究の拡充とキャンパス環境と施設を整備し、充実した大学生活を過ごせるように予算を編成しました。

今年度の新たな事業として、教育面では、オフィスアワー制度を導入しました。これは、教員があらかじめ示された時間帯に研究室等に待機して、学生の皆さんの履修相談や、授業や学生生活に関する相談に応じる制度です。この時間帯はあらかじめ専用端末や本学ホームページ（学生向け情報提供システム）にて確認することができ、その時間帯であれば予約無しで研究室等を訪問することができます。

また、今年度から神戸親和女子大学と提携し、小学校教諭一種免許状取得プログラムを開始しました。これは、本学在学中に神戸親和女子大学通信教育部の科目等履修生として受講し、テキストによる通信教育およびスクリーニングによって必要な単位を修得するものです。

国際交流科目では、海外語学研修や様々な国の文化を理解するために海外文化研修を実施しています。今年度の語学研修は、中国、イギリス、文化研修はインド、ヨーロッパ（フランス）に加え、新たに中国への文化研修が開設されます。日本の宗教と文化に大きな影響を与えた中国を実際に訪ねることによって、中国と日本双方の宗教と文化理解を深めることができます。

また、将来の就職のためのキャリア支援は、昨年度から実施しているリレー講義やインターンシップを、今年度から正課の授業として開講しました。これは、就職活動だけでなく、学生一人ひとりが自分のことをよく知り、自分の将来について考える眼を養うことをねらいとして開講するものです。

大学就学人口の減少など大学を取り巻く状況は厳しいものがあります。その中で、仏教精神によって自己を問うことを学びの基本理念とする本学に学ぶ学生の皆さんが、輝ける人生を見つけていただけるようサポートするとともに、個性輝く大学として教育研究の一層の拡充を図るために予算を執行してまいります。

（学監・事務局長 藤坂初裕）

2007年度資金収支予算書
(2007年4月1日～2008年3月31日)

(単位 円)

学生生徒等納付金収入…授業料や、実習の際に納めてもらう実習料です。

事業収入…寮への入寮費や公開講座の受講料、就職講習の講習料などです。

前受金収入…次年度入学者の入学金や授業料などです。

その他の収入…貸与奨学金の返還金などです。

収入の部		支出の部	
科目	金額	科目	金額
学生生徒等納付金収入	4,224,445,000	人件費支出	2,826,488,000
手数料収入	124,203,000	教育研究経費支出	1,224,171,000
寄付金収入	184,000,000	管理経費支出	464,625,000
補助金収入	380,300,000	借入金等利息支出	30,331,000
資産運用収入	81,970,000	分担金支出	10,000,000
事業収入	66,225,000	借入金等返済支出	111,100,000
雑収入	121,910,000	施設関係支出	34,500,000
前受金収入	769,720,000	設備関係支出	108,502,000
その他の収入	136,405,000	資産運用支出	500,370,000
		その他の支出	45,400,000
		予備費	20,000,000
資金収入調整勘定	△881,522,000	資金支出調整勘定	△44,694,000
前年度繰越支払資金	7,324,901,216	次年度繰越支払資金	7,201,764,216
収入の部合計	12,532,557,216	支出の部合計	12,532,557,216

施設関係支出…土地や建物等の取得にかかる支出です。

設備関係支出…大学の資産となる備品の取得にかかる支出です。教室の机、パソコン、図書などがこれにあたります。

資産運用支出…将来的な施設充実のために積立てるための支出です。

その他の支出…貸与奨学金の貸付金や前年度経費のうち年度を越えてから支払わなければならない支出のことです。

2007年度消費収支予算書
(2007年4月1日～2008年3月31日)

(単位 円)

手数料…入学検定料や証明書発行手数料などです。

寄付金…有志の方々や真宗大谷派および教育後援会から寄付していただいているものが主です。

補助金…国や京都市などからの補助金です。

資産運用収入…預金の利息や大学の施設利用料などです。

消費収入の部		消費支出の部	
科目	金額	科目	金額
学生生徒等納付金	4,224,445,000	人件費	2,813,287,000
手数料	124,203,000	教育研究経費	1,792,473,000
寄付金	191,800,000	(うち減価償却額)	(568,302,000)
補助金	380,300,000	管理経費	484,589,000
資産運用収入	81,970,000	(うち減価償却額)	(19,964,000)
事業収入	66,225,000	借入金等利息	30,331,000
雑収入	136,250,000	分担金	10,000,000
		資産処分差額	800,000
		予備費	20,000,000
		消費支出の部合計	5,151,480,000
帰属収入合計	5,205,193,000	当年度消費支出超過額	300,389,000
基本金組入額合計	△354,102,000	前年度繰越消費収入超過額	4,217,214,380
消費収入の部合計	4,851,091,000	翌年度繰越消費収入超過額	3,916,825,380

人件費…専任の教職員、非常勤講師、嘱託職員、アルバイト職員などの給与等です。

教育研究経費…教育や研究活動にかかる消耗品や通信費などの経費のことです。

管理経費…人事、総務、経理、職員の福利厚生や学生募集にかかる経費のことです。

「大谷大学広報07-秋」発行のお知らせ

「大谷大学広報07-秋」の発行を11月に予定しています。さまざまなエッセイや連絡事項などを掲載する予定です。ぜひお読みください。広報は次の場所に置いてありますので、ご自由にお取りください。

- ①博綜館ピロティエ (博綜館入口横) ②至誠館 (学生課カウンター前) ③響流館 (教育研究支援課カウンター横) ④学内食堂
⑤各研究室 ⑥1号館1階 ⑦2号館1階

また、大谷大学ホームページから、バックナンバー含め広報の閲覧が可能です。

http://www.otani.ac.jp/annai/shuppan/d_kouhou.html

最近、地球温暖化ないしは気候変動についての記事が非常に多いことは多くの人が気がついているはずである。この原因について人間活動、とくに化石燃料の大量消費による大気中の二酸化炭素濃度の増大が原因であると考え人が多いが、それに反してこれは太陽活動などの自然の変動であるという立場をとる人も一方にある。確かに地球に大きな気候変動が存在したことは、地質学的研究から明らかである。例えば、第四紀と呼ばれる最も新しい地質時代には氷河期があった。また、歴史時代をとってみても5世紀から13世紀

までは中世の温暖時代、13世紀から18世紀にかけては小氷期と呼ばれる寒冷な時代があったことが知られている。これらの気候変動は人間活動というよりは大きな自然変動の結果であると考えることができる。自然変動の立場をとるならば、大気中の二酸化炭素の増大は温暖化の結果であるということになる。

南極やグリーンランドの氷河に含まれている気泡はその積雪時の大気の化学組成の化石である。この氷河をボーリングして得られた試料の気泡を化学分析することから過去の大気中の二酸化炭素濃度を測定することが

できる。その測定結果は1万8千年前の最終氷期の大気中の二酸化炭素濃度は約200 ppm (ppmとは1/100万を示す単位) である。また1750年では約280 ppm、1900年では約310 ppmであった。このことから平均気温と大気中の二酸化炭素濃度は相関関係にあることがわかるが、それが原因であるのか結果であるのかについては議論が分かれていた。

1950年以降はハワイで直接大気中の二酸化炭素濃度の変化が観測されている。その観測結果の示すところによれば、1950年に約320 ppm、現在は約380 ppmである。この50年間の二酸化炭

話題の広場 SQUARE

地球温暖化の現在 —大気中の二酸化炭素増大は温暖化の結果か原因か—



絵 内山智廣

西田 潤 一

素濃度の上昇は自然の変動というよりは、明らかに化石燃料の大量使用の結果であると考えざるを得ない。

本年2月にフランス・パリで開かれた「気候変動に関する政府間パネル」の報告書によれば、次のようなことが指摘されている。(1)この100年間に地球の平均気温は0.74℃上昇している。(2)過去50年間に海洋の表面温度の上昇も認められる。(3)過去100年間に海水面は約17 cm 上昇している。(4)1970年以来の人工衛星からの観測結果は北極海の海水面積と北半球の積雪面積はともに減少している。(5)極端な気象現象の出現頻度も増大している。

ここで指摘されていることから1950年以降の大気中の二酸化炭素増大に伴って地球温暖化が

起きていると考えることができる。すなわち、二酸化炭素濃度の増加は温暖化の結果ではなく原因であると推定できる。

この温暖化に伴ってどのようなことが起きるかについては様々な説がある。一つはよく指摘されている海面上昇であり、太平洋やインド洋の珊瑚礁の島々が水没するという危険性である。その他に、これまでの気候に変化が起きるのではないかと、例えば地中海周辺では元々冬雨、夏乾燥気候であるが、夏期の乾燥化が現在より進むのではないかと予測されている。その一方でヨーロッパの寒冷化という予測もある。これは現在のヨーロッパはメキシコ湾から流れて来るメキシコ暖流のおかげで、緯度の割には温暖な気候である。

ところが気候変動の結果、このメキシコ暖流が弱まり、ヨーロッパの気候に影響を与えるのではないかということである。また、北極海周辺では北極海の海水面積の減少の結果、北極海を通る航路が可能ではないかと検討されている。これはマラッカ海峡を通る日本船舶が海賊に悩まされていることの解決策になるというプラス面である。しかし、大きく見るならば、何らかの形で二酸化炭素排出は押さえないければならないときにきているのだろう。

(にしだ じゅんいち)
教授 地理地質学

